

近畿支部女性内視鏡医キャリアサポート特別企画

近畿支部所属施設における働き方改革の現状と展望

～近畿支部アンケート結果を通じて～

日本消化器内視鏡学会近畿支部女性内視鏡医の会 委員

大阪大学大学院医学系研究科消化器内科学

上間遼太郎

日本消化器内視鏡学会 COI開示

発表者名：上間遼太郎

演題発表内容に関連し、発表者らに開示すべき
COI関係にある企業等はありません。

医師の働き方改革の開始せまる

医師の働き方改革

- これまでの我が国の医療は**医師の長時間労働**により支えられており、今後、医療ニーズの変化や医療の高度化、少子化に伴う医療の担い手の減少が進む中で、医師個人に対する負担がさらに増加することが予想される。
- こうした中、医師が健康に働き続けることのできる環境を整備することは、医師本人にとってはもとより、患者・国民に対して提供される**医療の質・安全**を確保すると同時に、**持続可能な医療提供体制**を維持していく上で重要である。
- **地域医療提供体制の改革**や、各職種専門性を活かして患者により質の高い医療を提供する**タスクシフト/シェアの推進**と併せて、医療機関における**医師の働き方改革**に取り組む必要がある。

現状

【医師の長時間労働】 病院常勤勤務医の約4割が年960時間超、約1割が年1,860時間超の時間外・休日労働
特に救急、産婦人科、外科や若手の医師は長時間の傾向が強い

【労務管理が不十分】 36協定が未締結や、客観的な時間管理が行われていない医療機関も存在

【業務が医師に集中】 患者への病状説明や血圧測定、記録作成なども医師が担当

目指す姿 **労務管理の徹底、労働時間の短縮により医師の健康を確保する**

+

全ての医療専門職それぞれが、自らの能力を活かし、より能動的に対応できるようにする

+

質・安全が確保された医療を持続可能な形で患者に提供

対策

長時間労働を生む構造的な問題への取組

- 医療施設の**最適配置の推進**
(地域医療構想・外来機能の明確化)
- 地域間・診療科間の**医師偏在の是正**
- 国民の理解と協力に基づく**適切な受診の推進**

医療機関内での医師の働き方改革の推進

適切な労務管理の推進

タスクシフト/シェアの推進
(業務範囲の拡大・明確化)

→ **一部、法改正で対応**

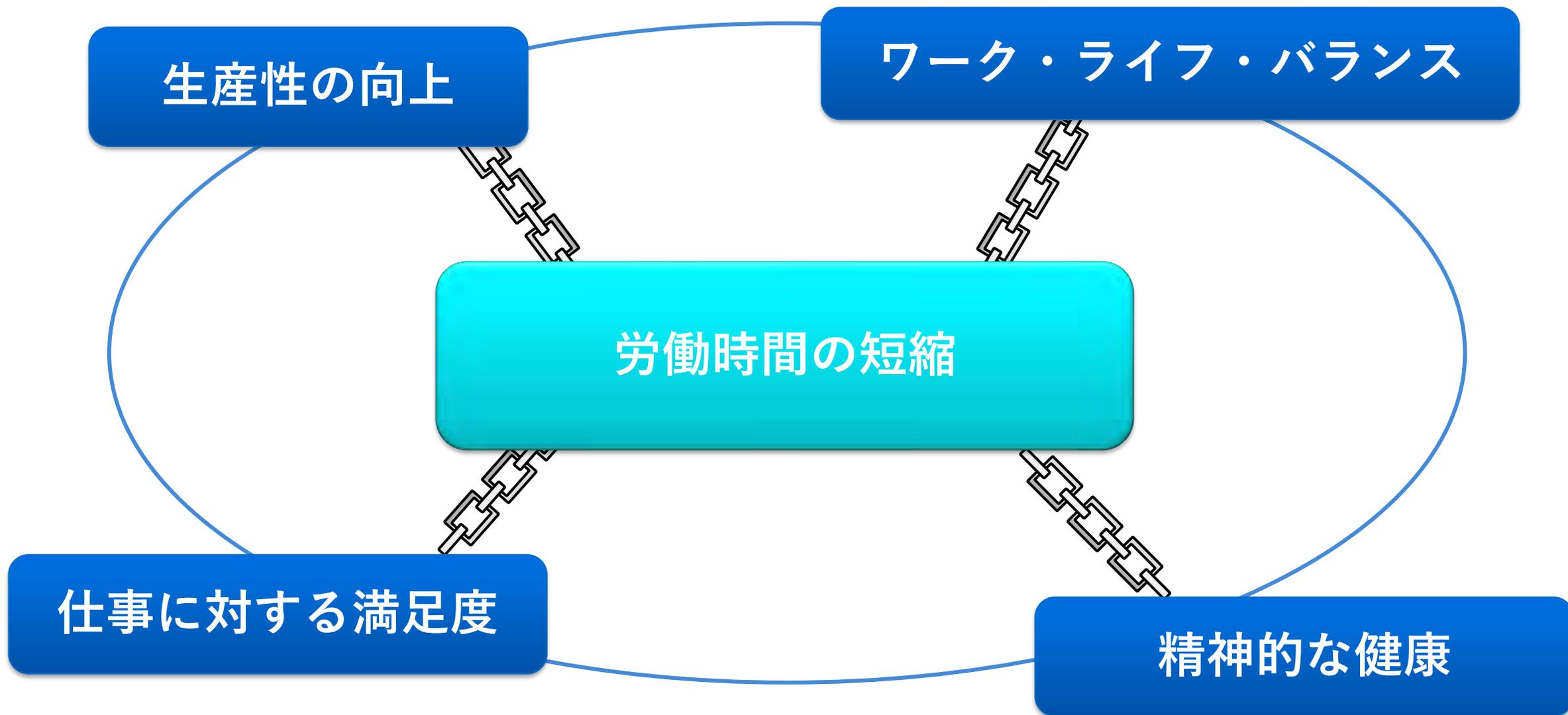
<行政による支援>

- ・医療勤務環境改善支援センターを通じた支援
- ・経営層の意識改革(講習会等)
- ・医師への周知啓発 等

時間外労働の上限規制と健康確保措置の適用 (2024.4～) 法改正で対応

地域医療等の確保	医療機関に適用する水準	年の上限時間	面接指導	休息時間の確保	医師の健康確保
医療機関が医師の労働時間短縮計画の案を作成 評価センターが評価 都道府県知事が指定 医療機関が計画に基づく取組を実施	A (一般労働者と同程度)	960時間	義務	努力義務	面接指導 健康状態を医師がチェック 休息時間の確保 連続勤務時間制限と勤務間インターバル規制(または代償休息)
	連携B (医師を派遣する病院)	1,860時間 ※2035年度末を目標に終了		義務	
	B (救急医療等)				
	C-1 (臨床・専門研修)	1,860時間			
	C-2 (高度技能の修得研修)				

真の働き方改革とは



近畿支部女性内視鏡医の会



委員長
木下 真樹子先生



事務局
鎌田和浩先生



支部長
内藤裕二先生

オブザーバー



辻直子先生



根引浩子先生



児玉裕三先生



長沼誠先生

委員



全圭夏先生



中野佳子先生



上間遼太郎



垣谷有紀先生



堀内葉月先生



池田仁美先生



東祐圭先生

近畿支部会員を対象としたアンケート

実施期間

2023年9月20日～10月31日

対 象

消化器内視鏡学会近畿支部会員

有効回答数

393件

10月10日時点での近畿支部会員数：6166名

メーリングリスト配信対象人数：5638名（回答率：7.0%）

必要サンプルサイズ：362名（信頼水準95%、許容誤差5%）

質問項目

- 基本属性（性別・年齢・勤務先）

- 働き方の現状

今回のメイントピック

- 男性、女性における働き方

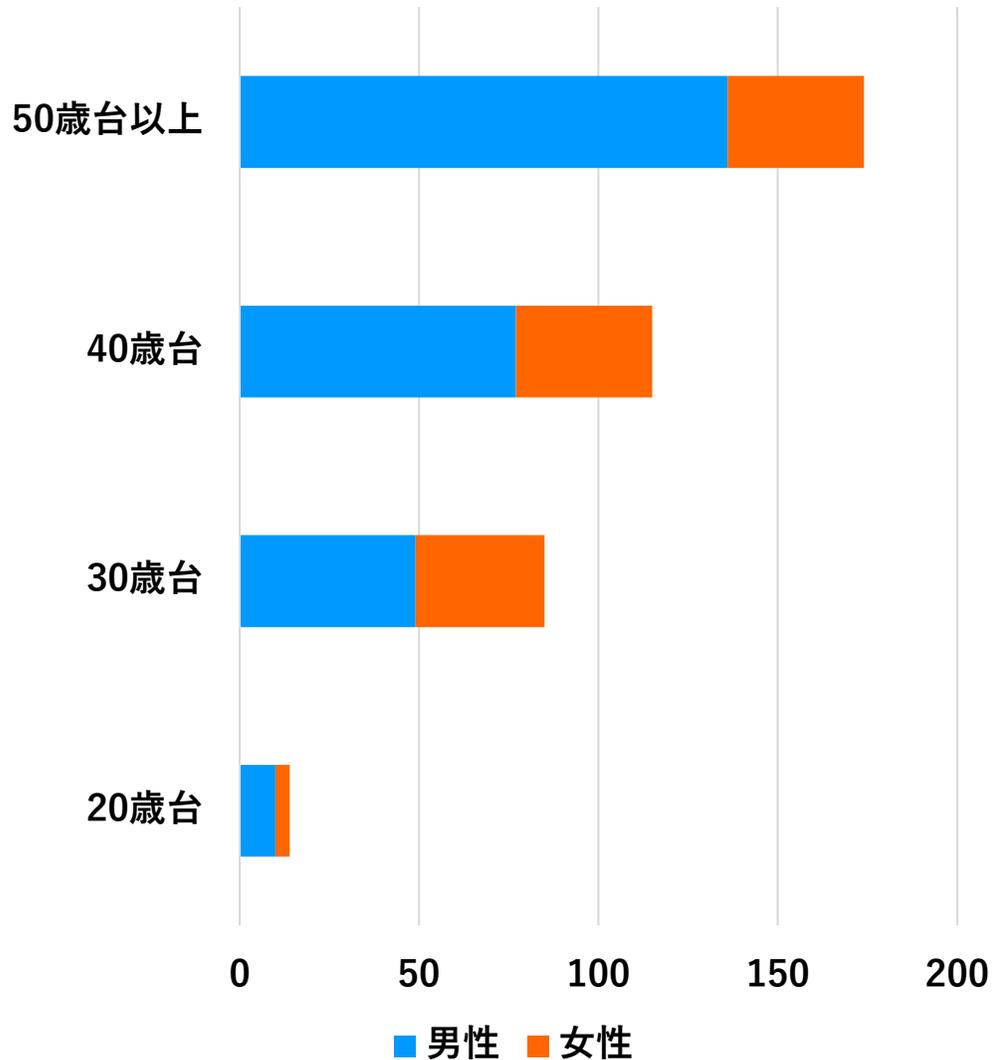
- 男性、女性における子育てとそれを取り巻く環境

- 資格や理想とする働き方に関して

全106項目のアンケート調査を実施

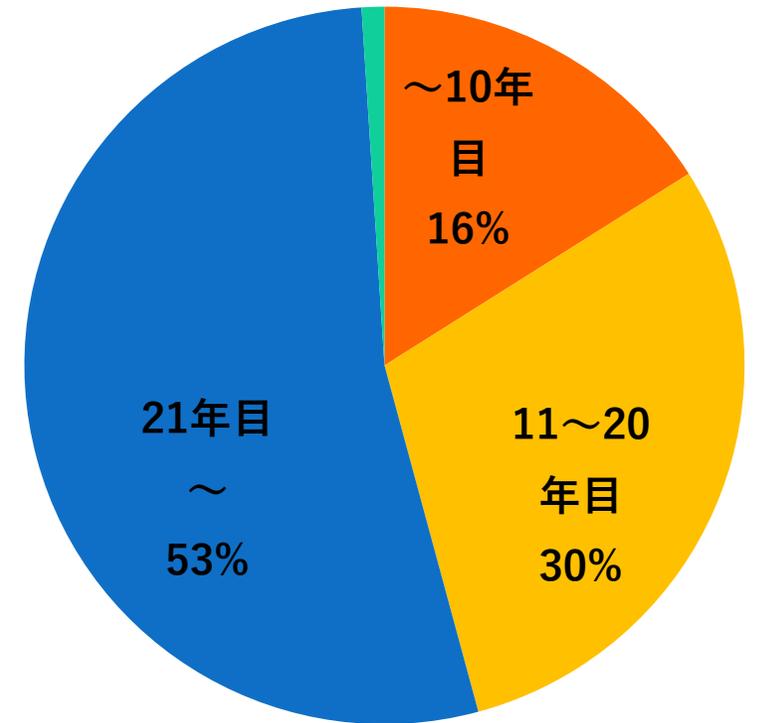
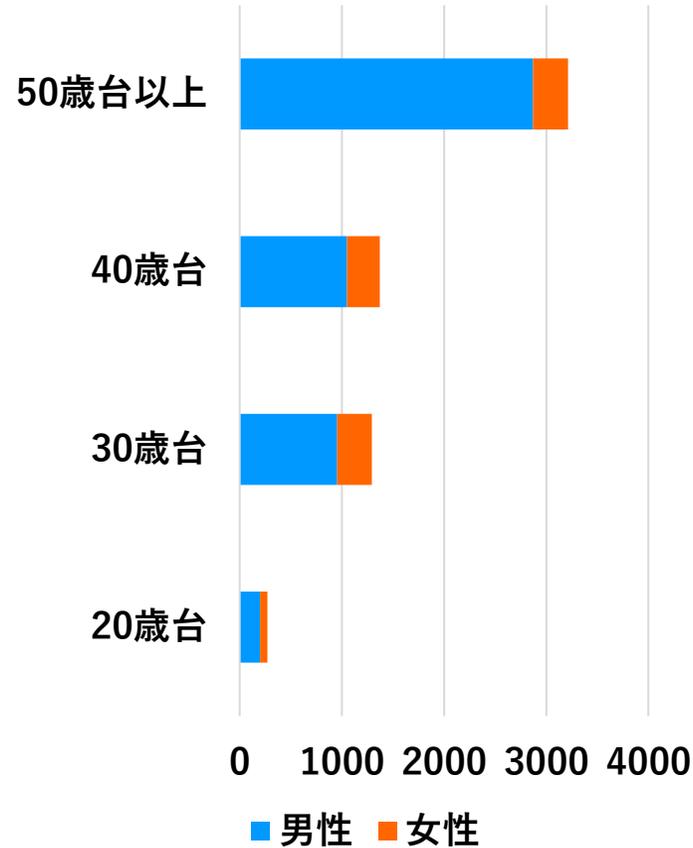
回答者の年齢・性別・卒後年数 (Q1・Q2・Q3)

アンケート回答者の年齢・性別分布



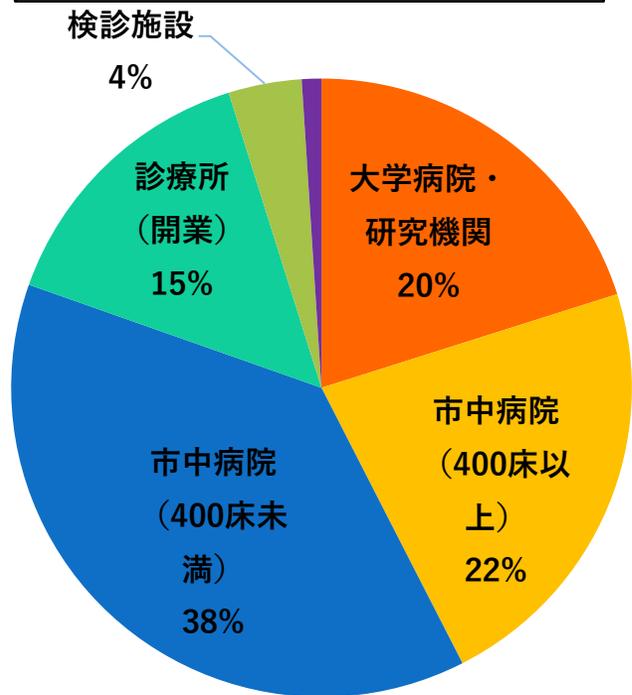
卒後年数

参考：近畿支部会員の年齢・性別分布

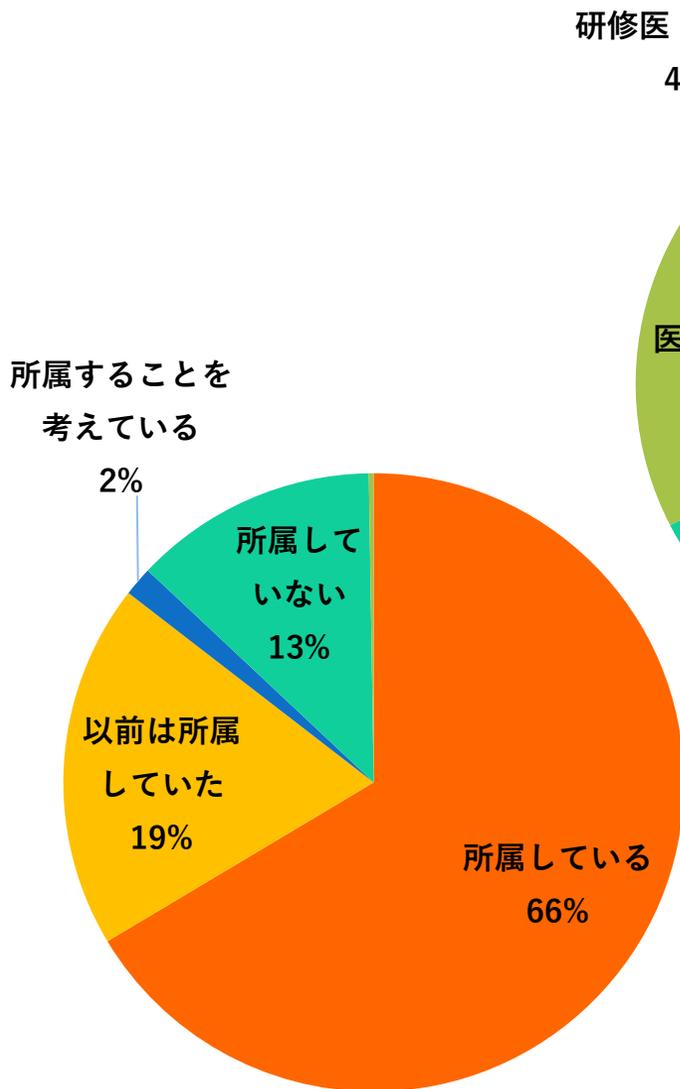


回答者の勤務環境に関する属性 (Q4~7)

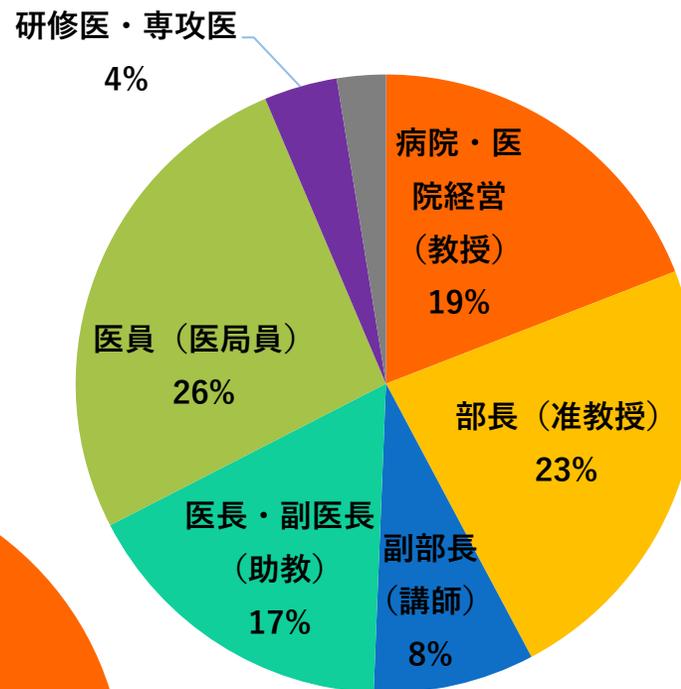
Q4. 主な勤務場所



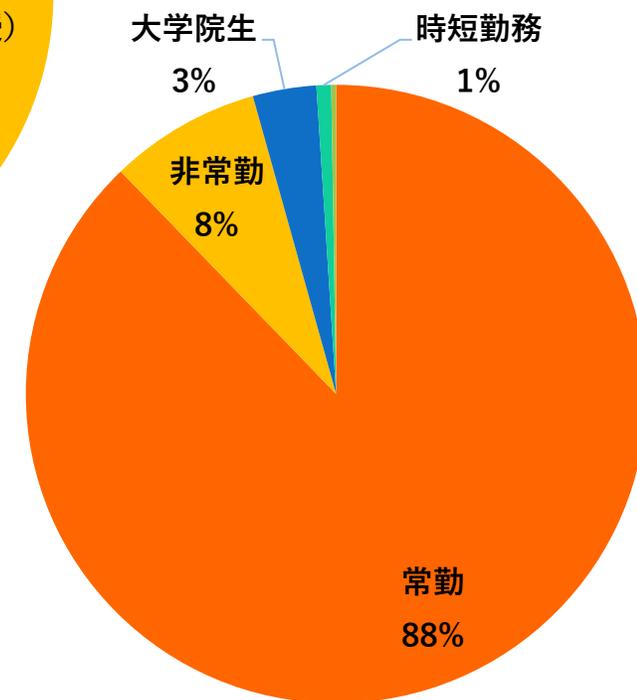
Q5. 医局への所属



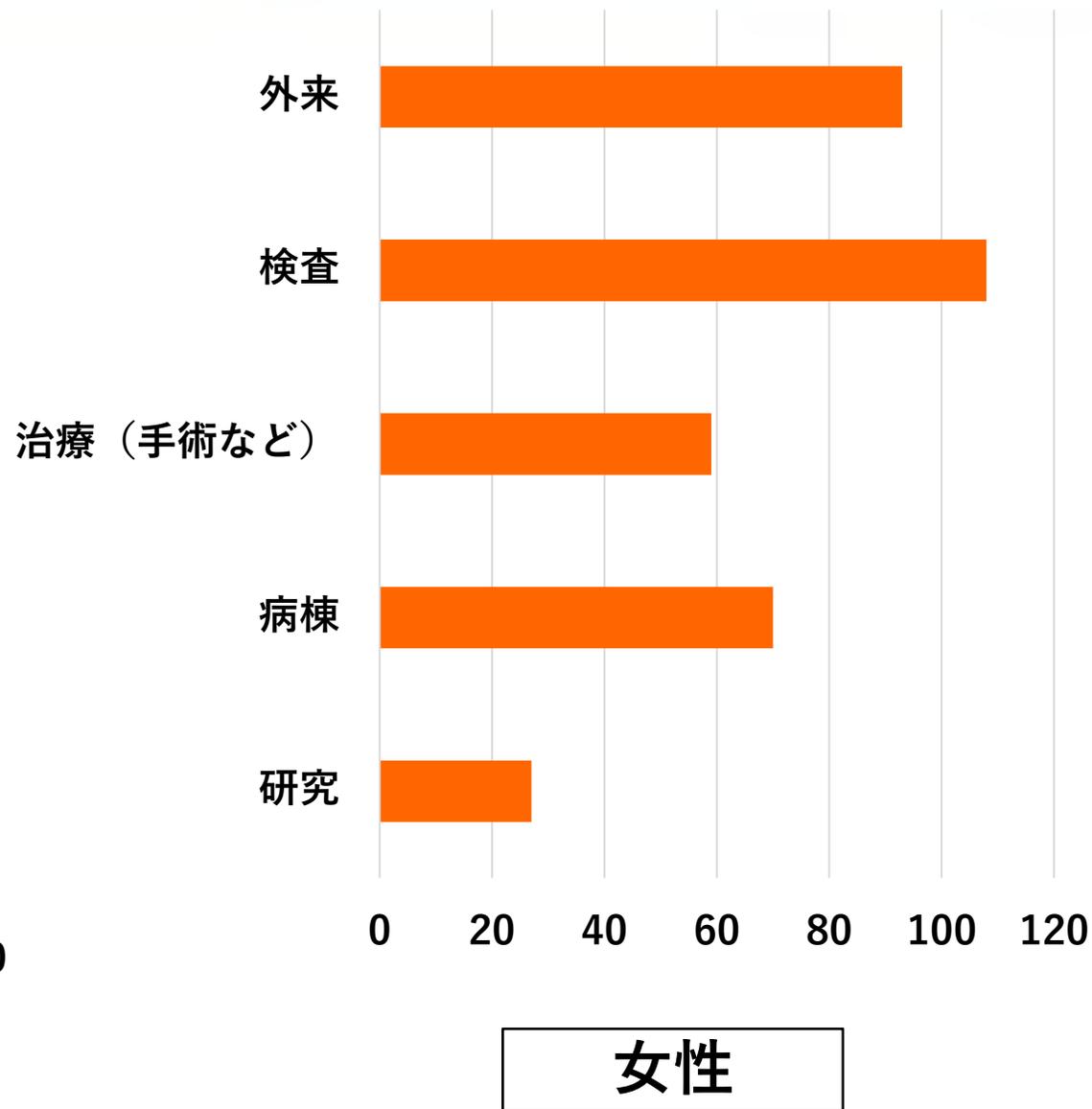
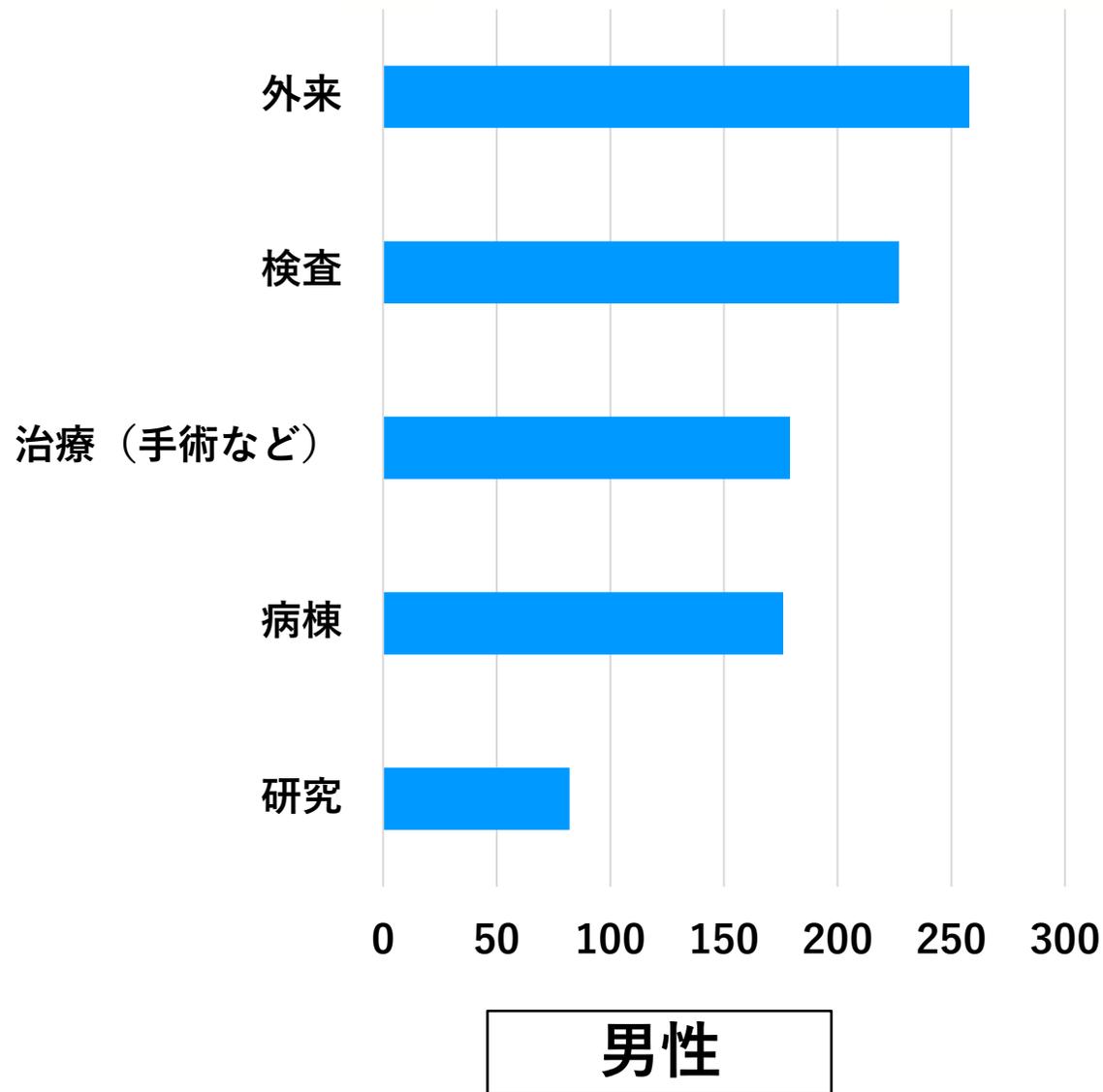
Q6. 職場での立場



Q7. 勤務形態

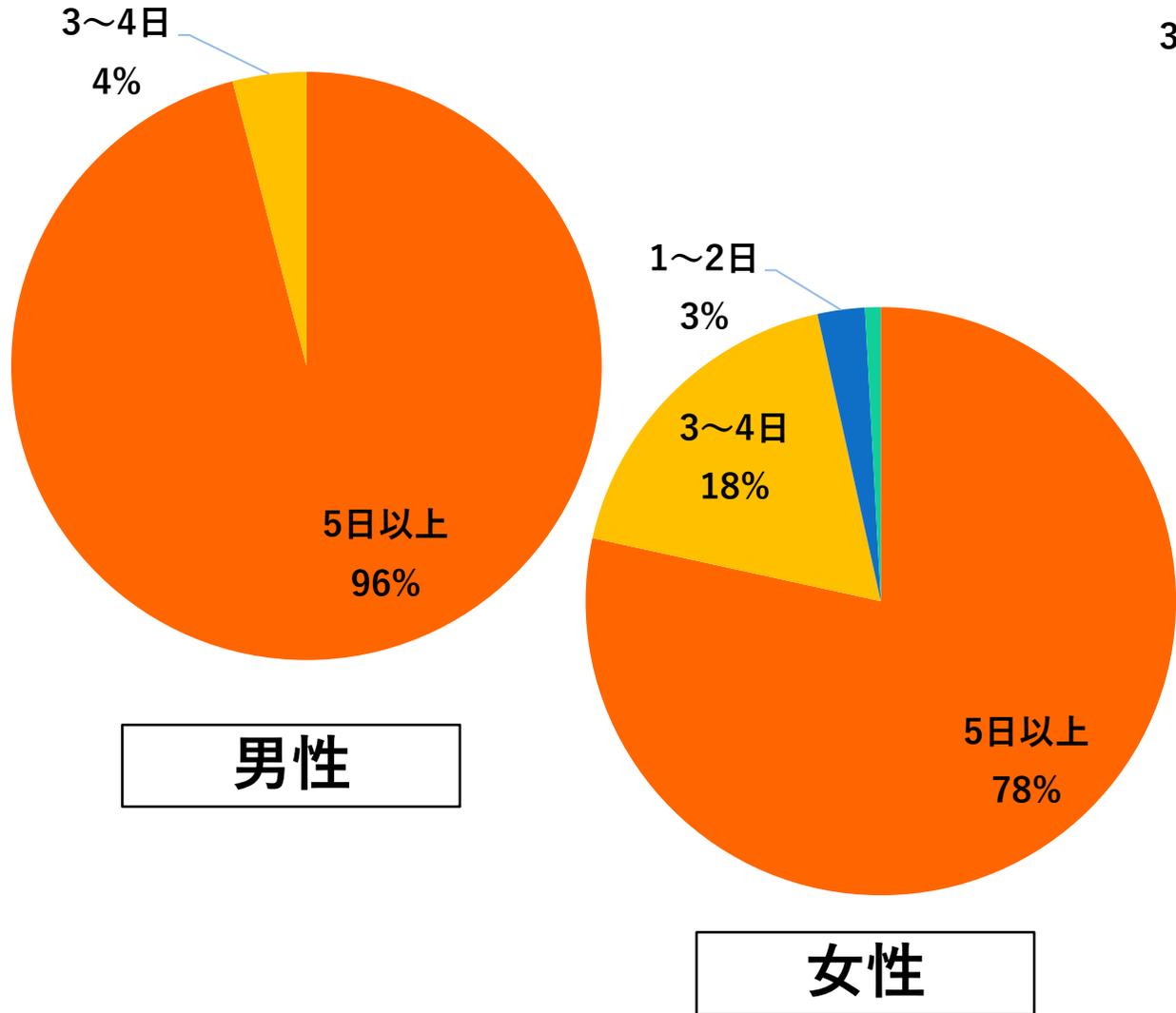


Q7. 現在の勤務内容（重複あり）

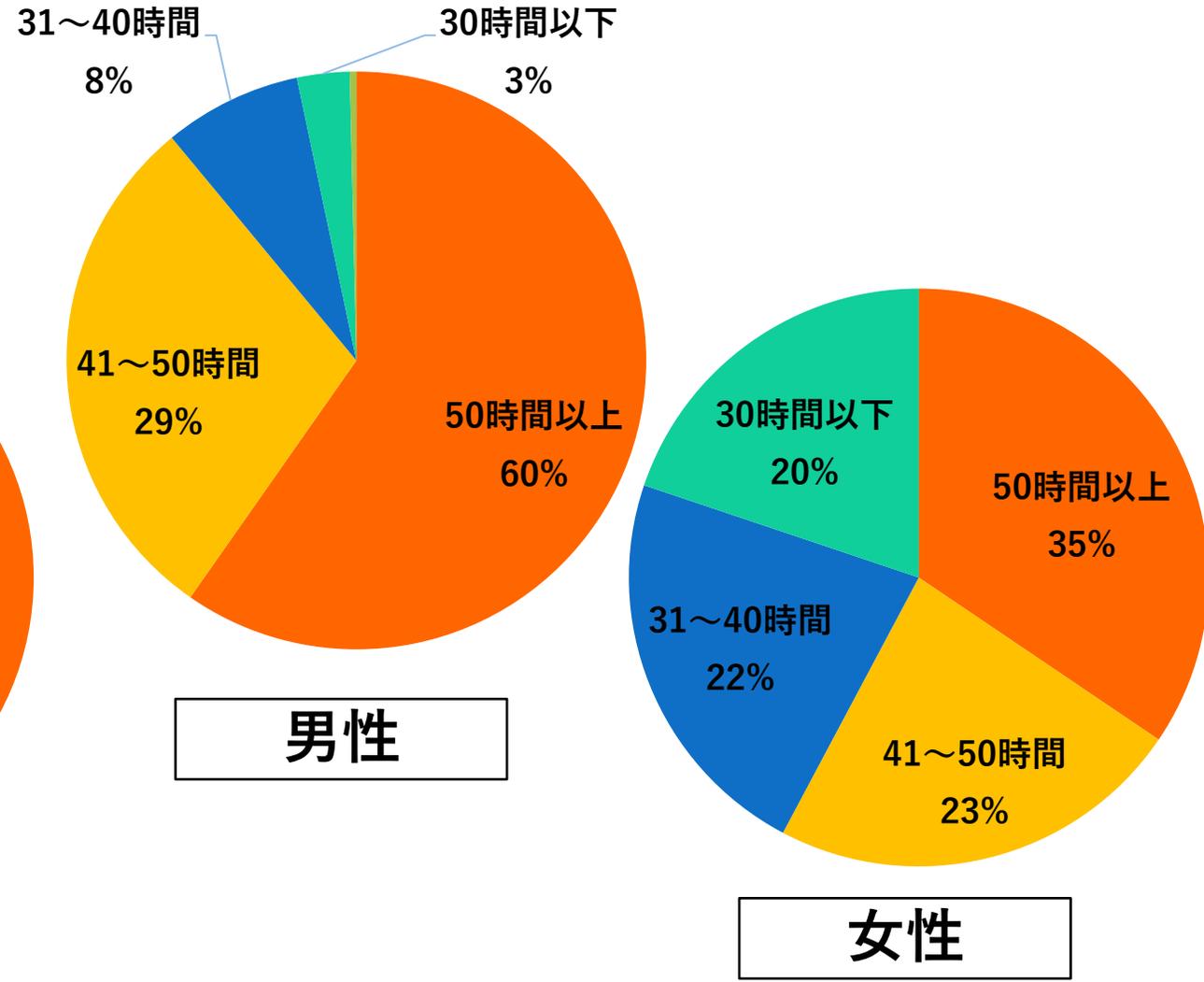


1週間の勤務状況について

Q8. 1週間の勤務日数

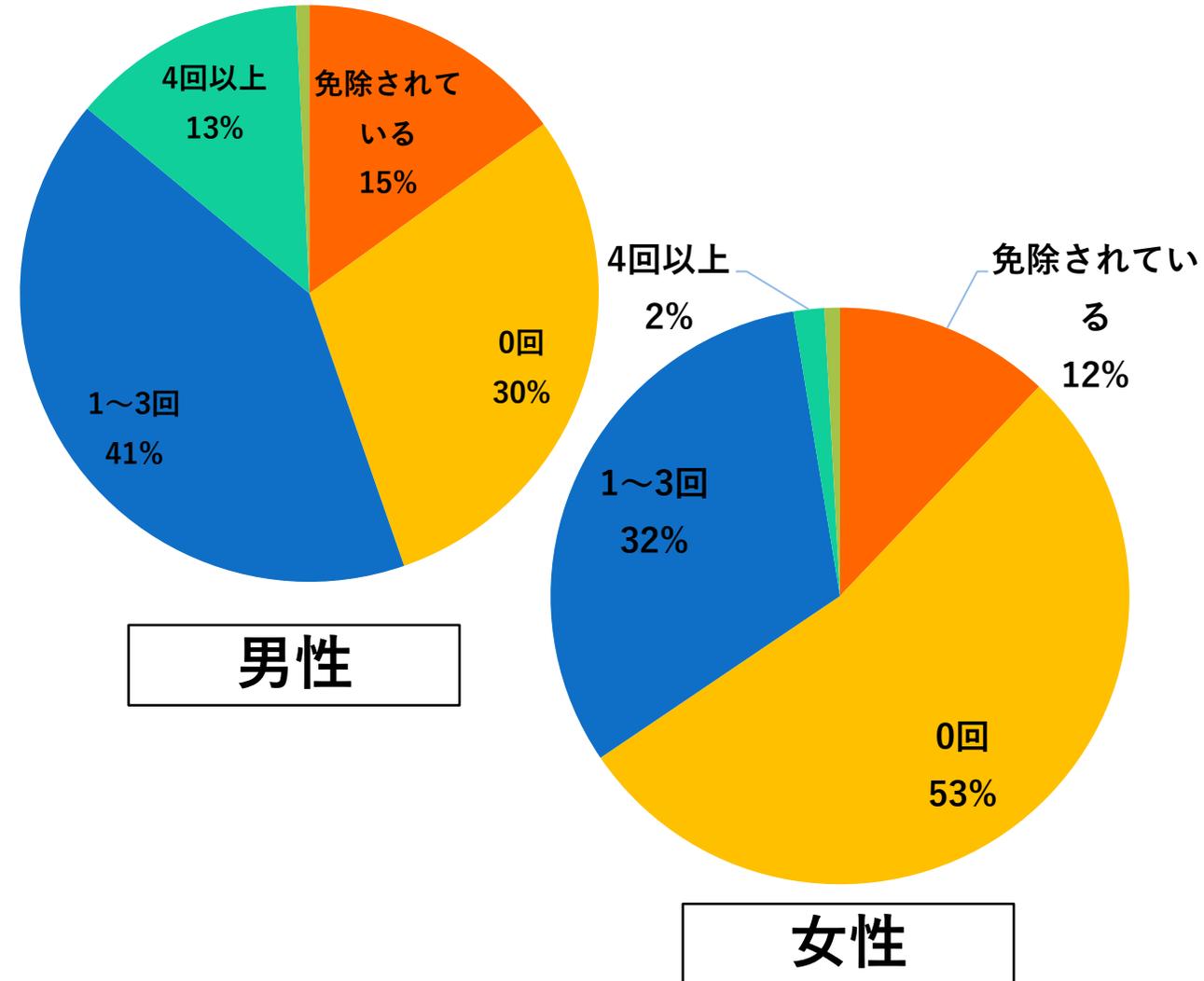


Q9. 1週間の勤務時間

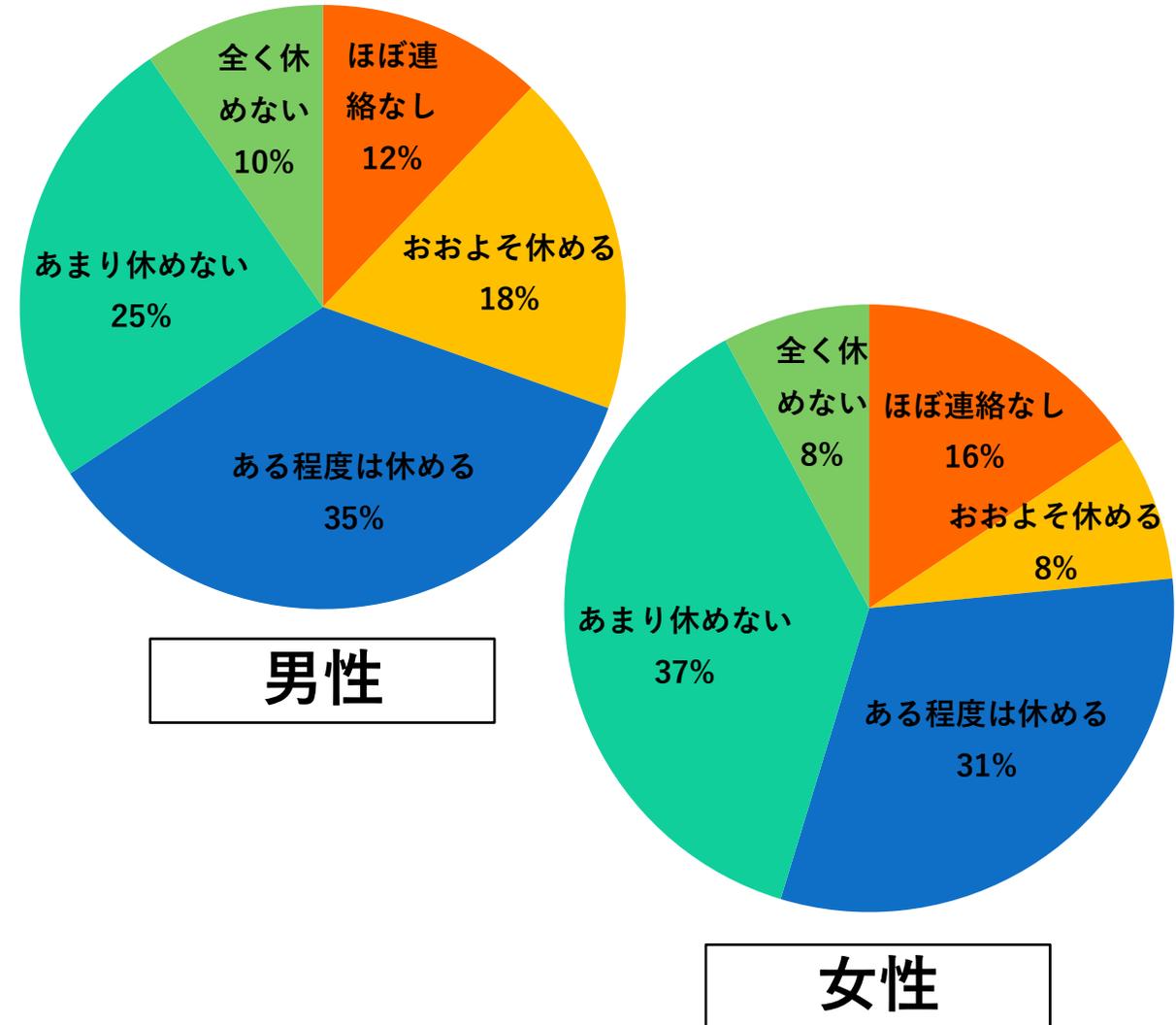


日当直の現状について

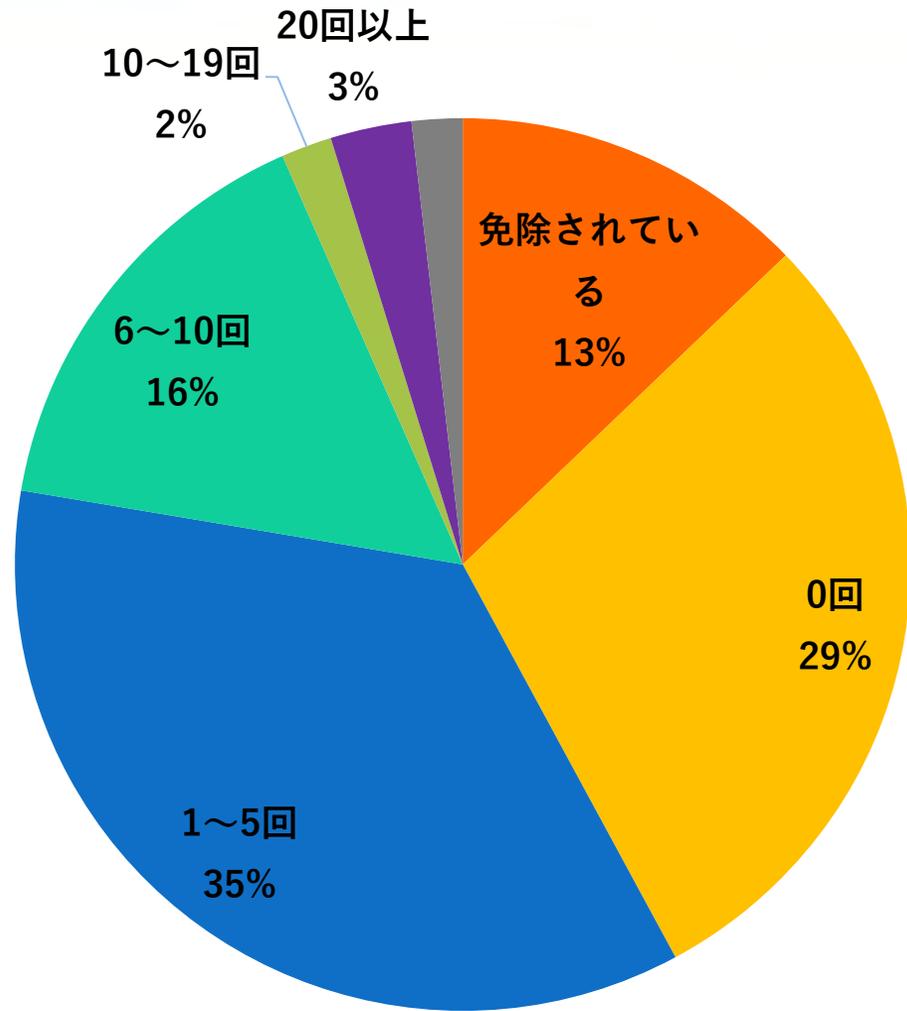
Q10. 1カ月の日当直回数



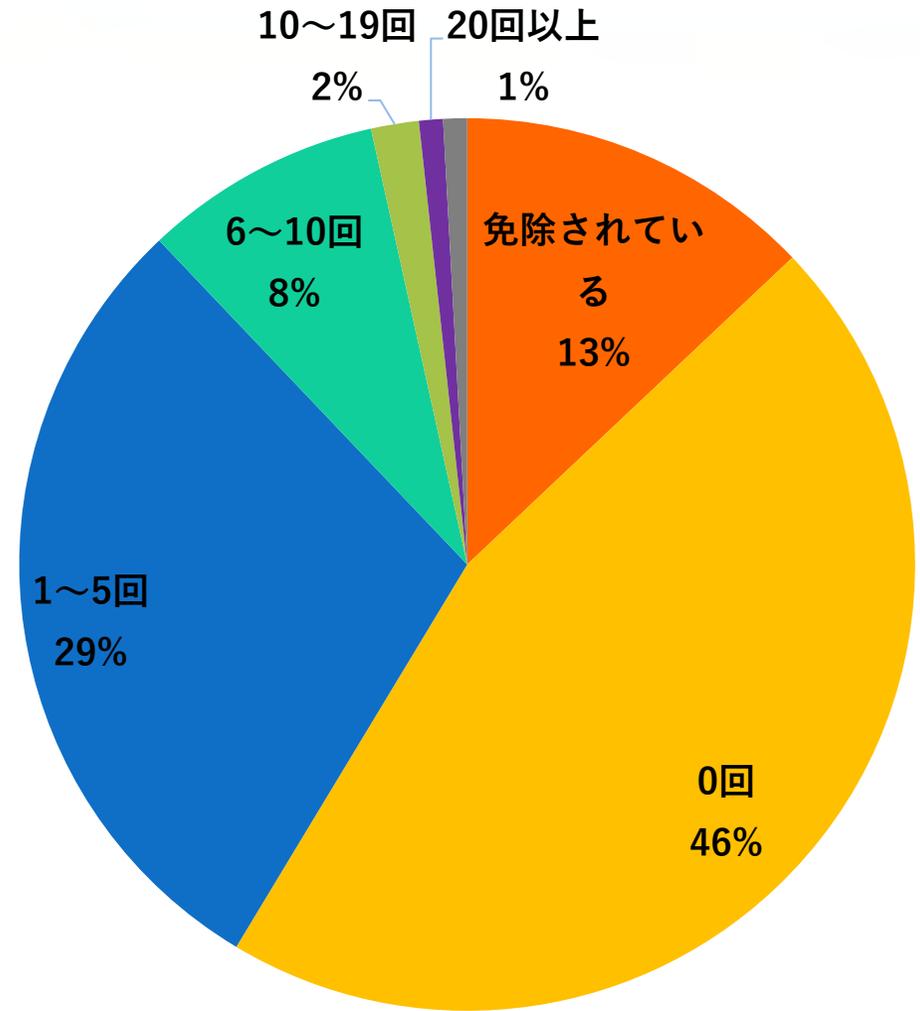
Q11. 日当直の忙しさ



Q12. 1カ月のオンコール回数

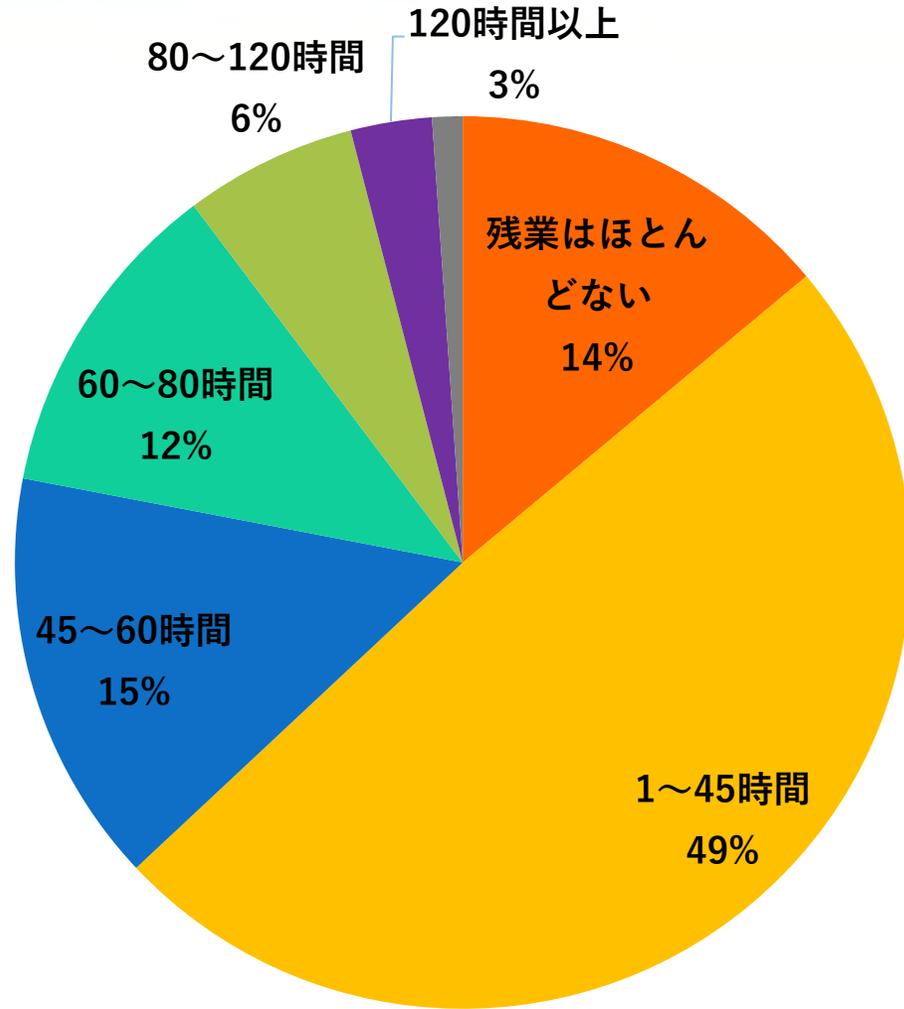


男性

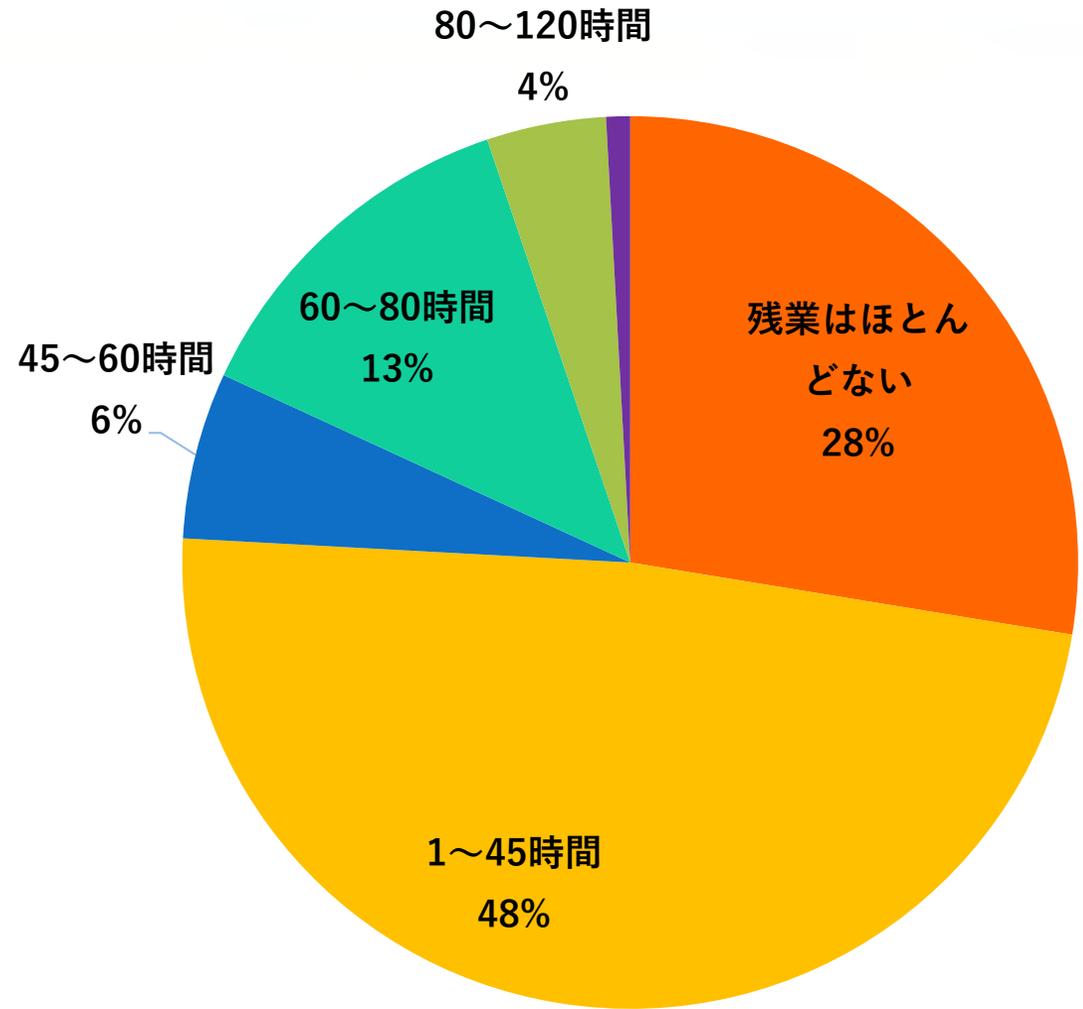


女性

Q13. 1カ月の残業時間

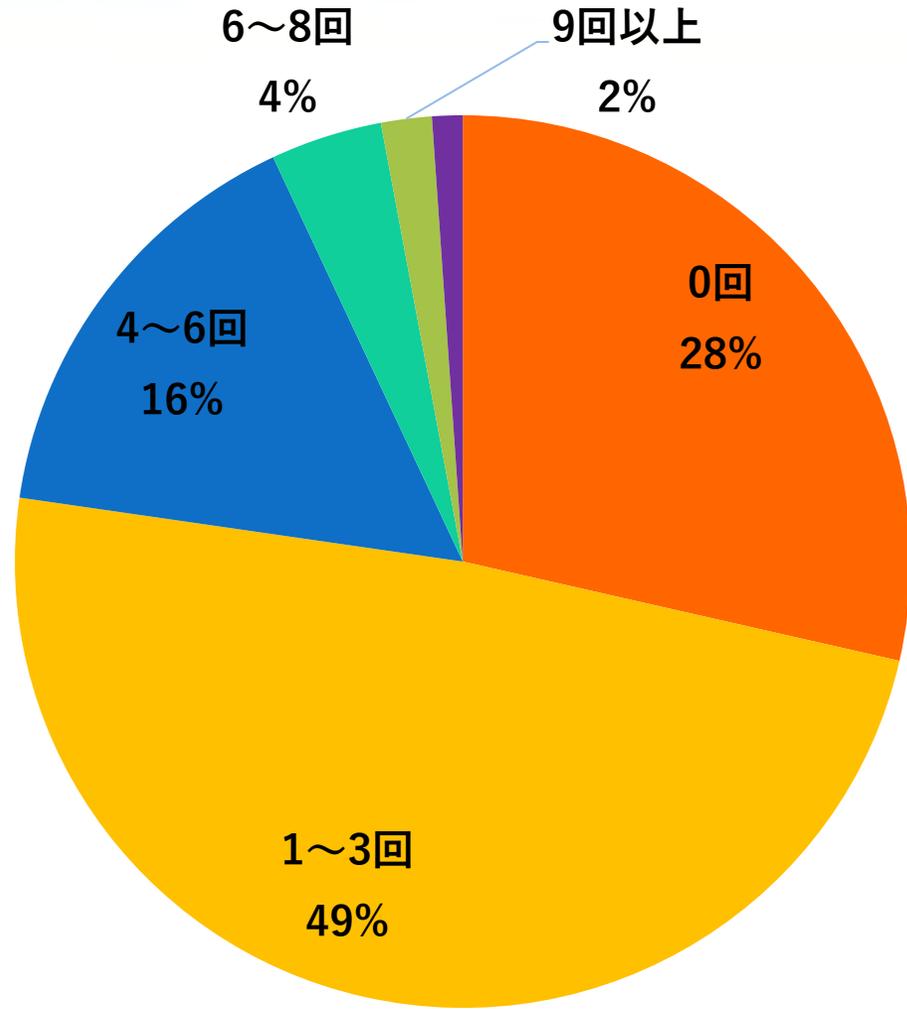


男性

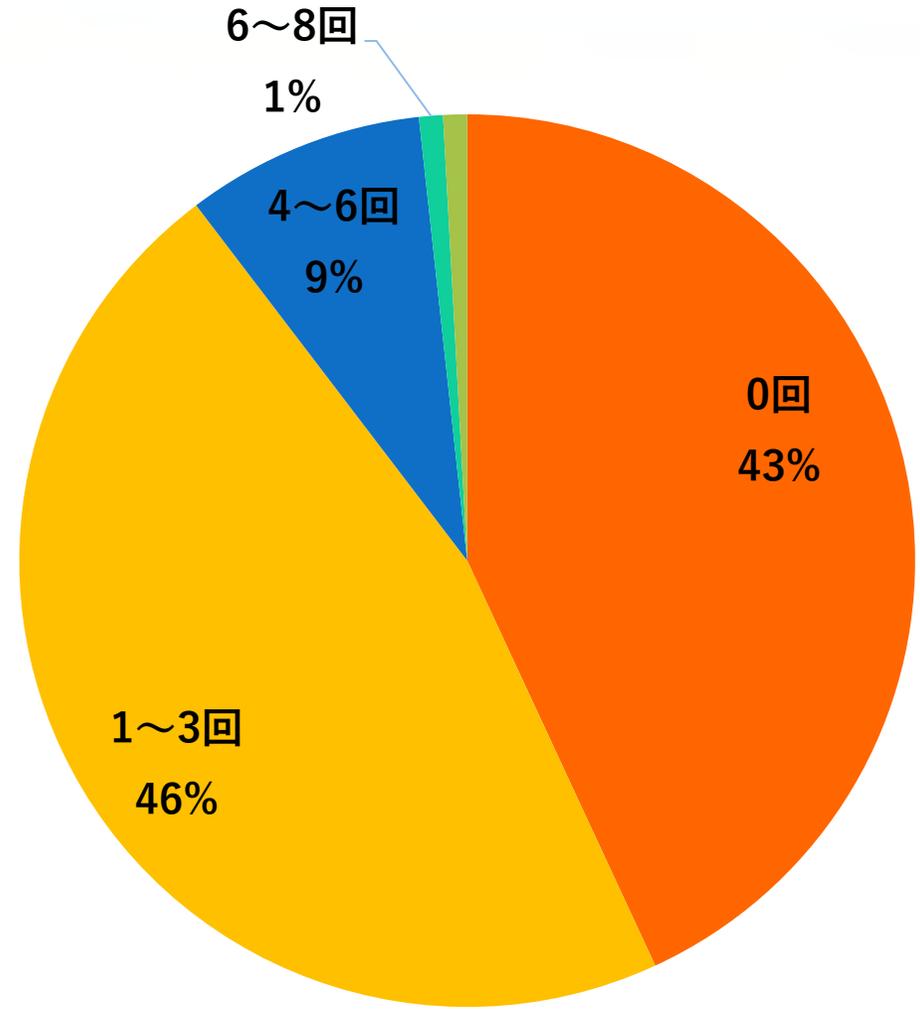


女性

Q15. 休日に職場に行く日数

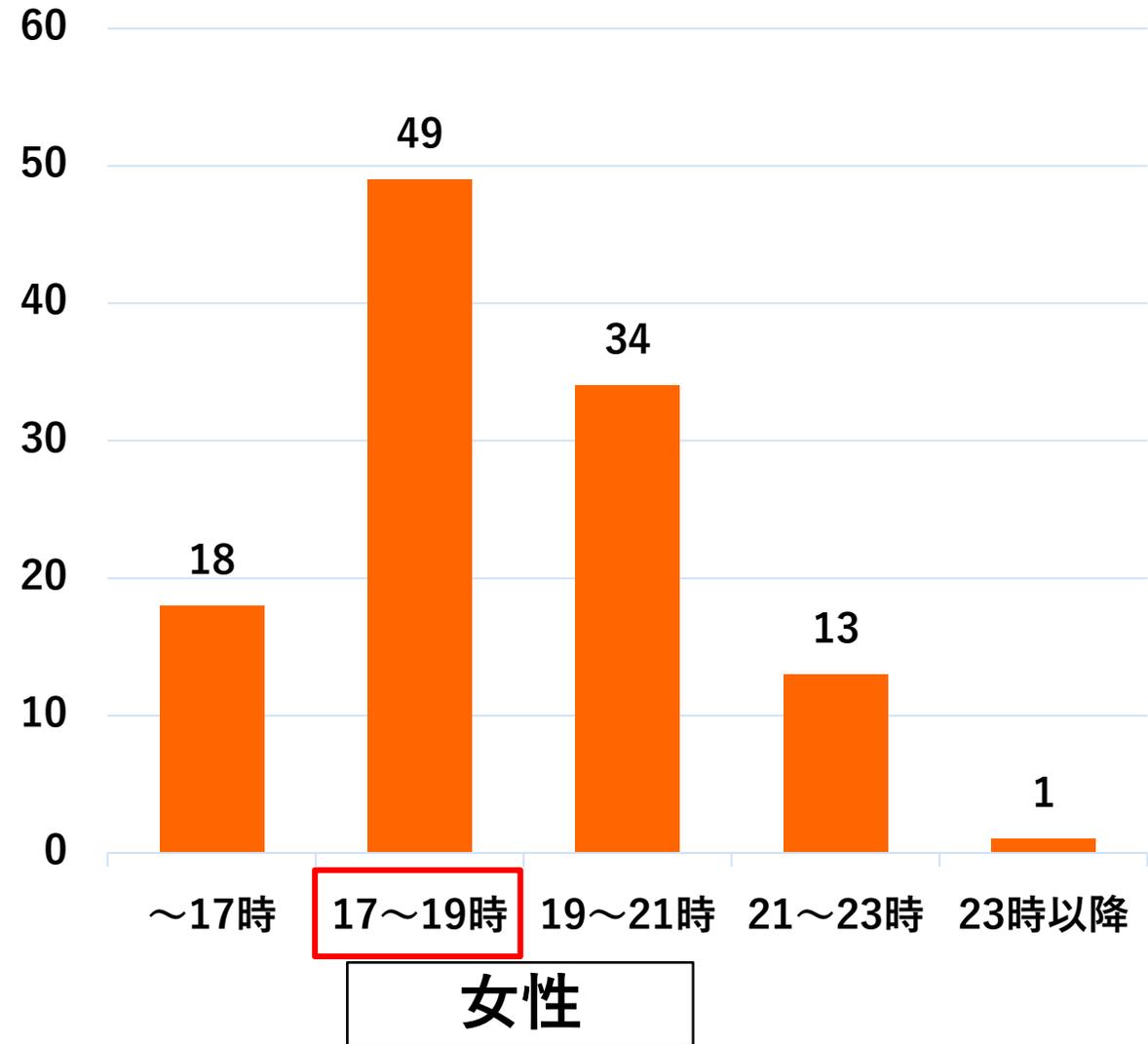
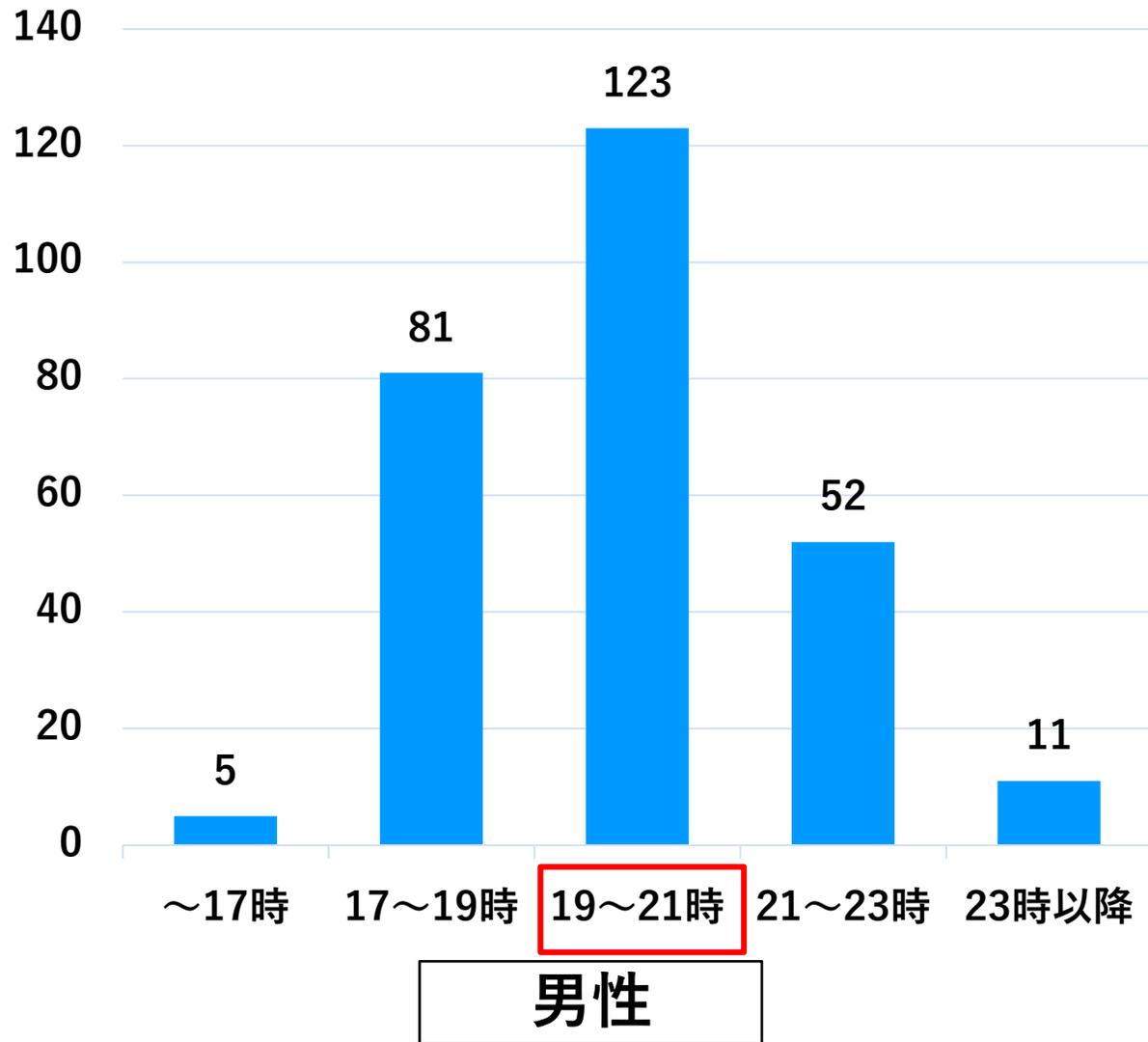


男性



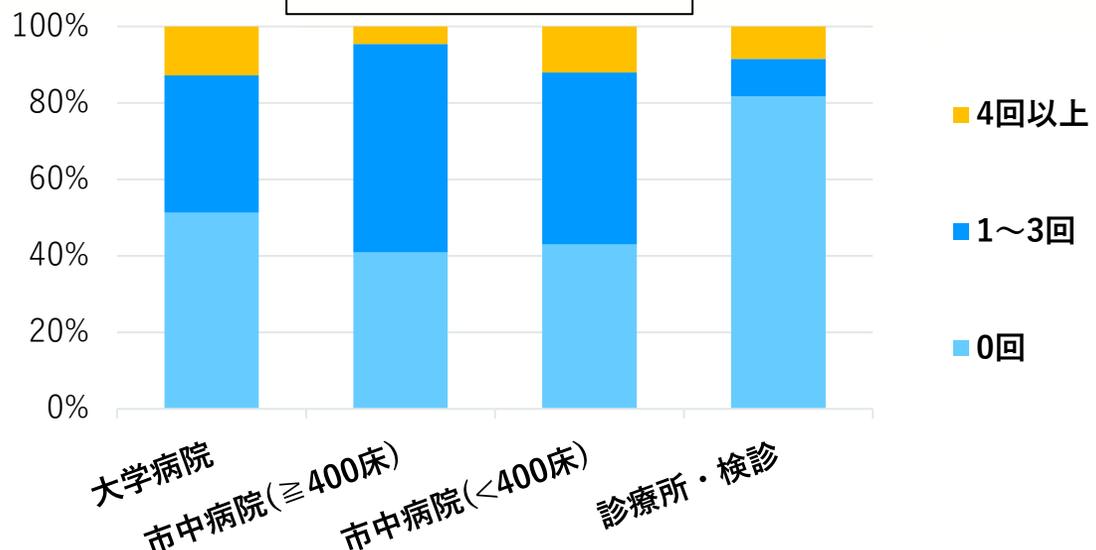
女性

Q16. 平日の平均的な帰宅時間

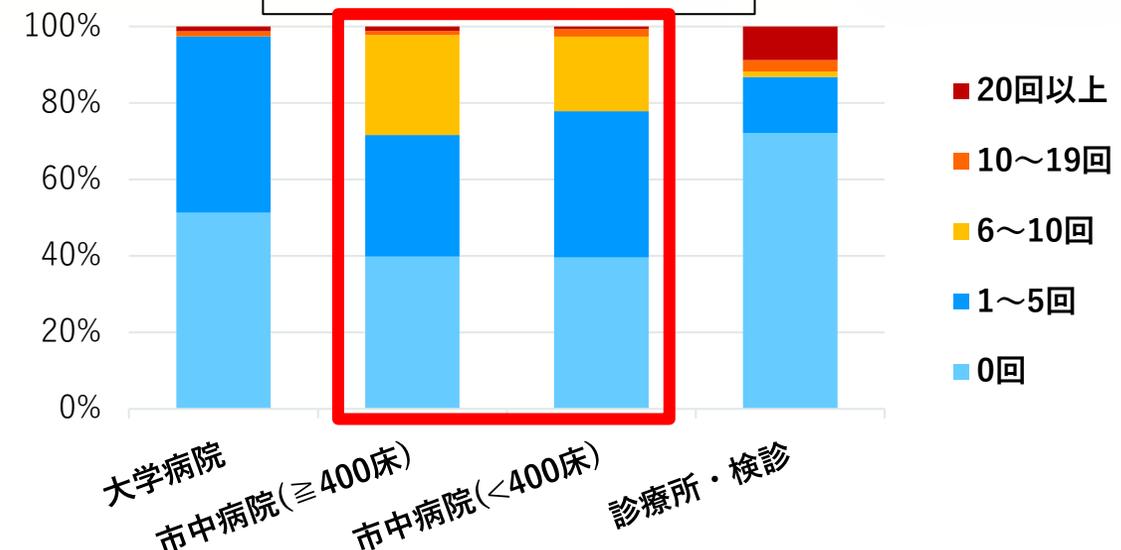


勤務先病院の規模別の働き方の現状

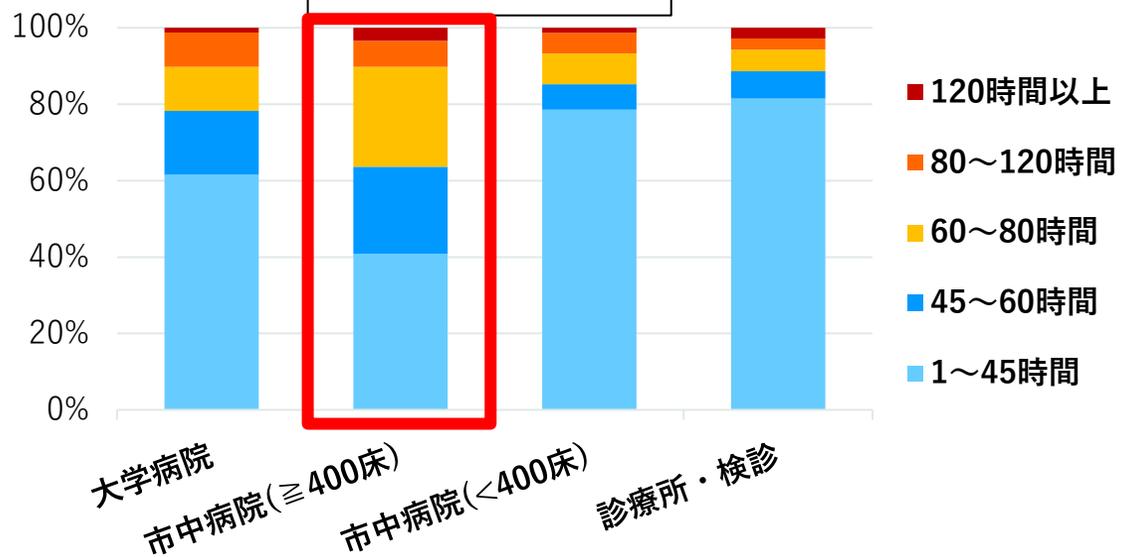
1カ月の日当直回数



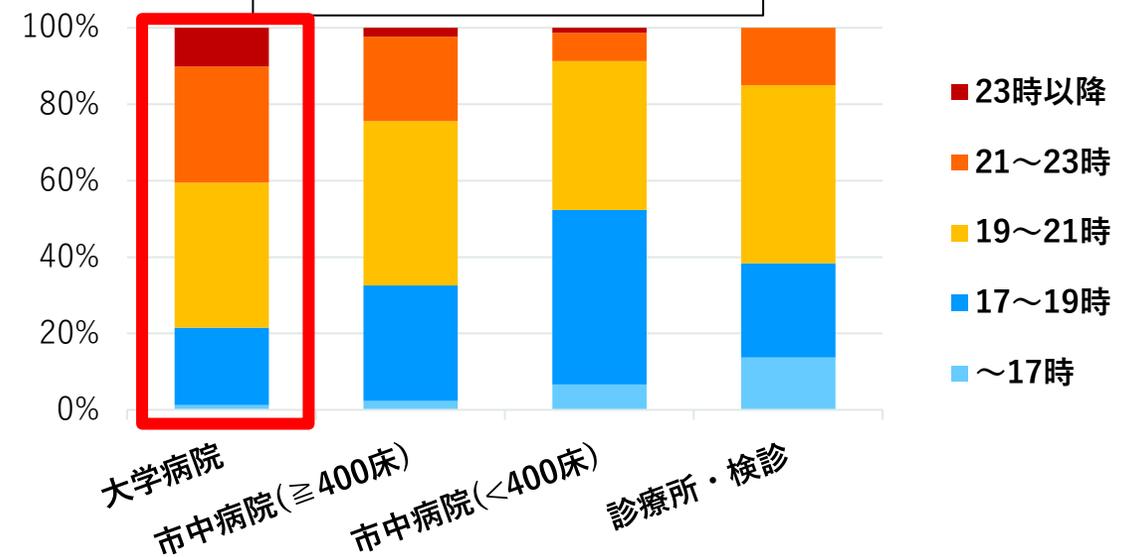
1カ月のオンコール回数



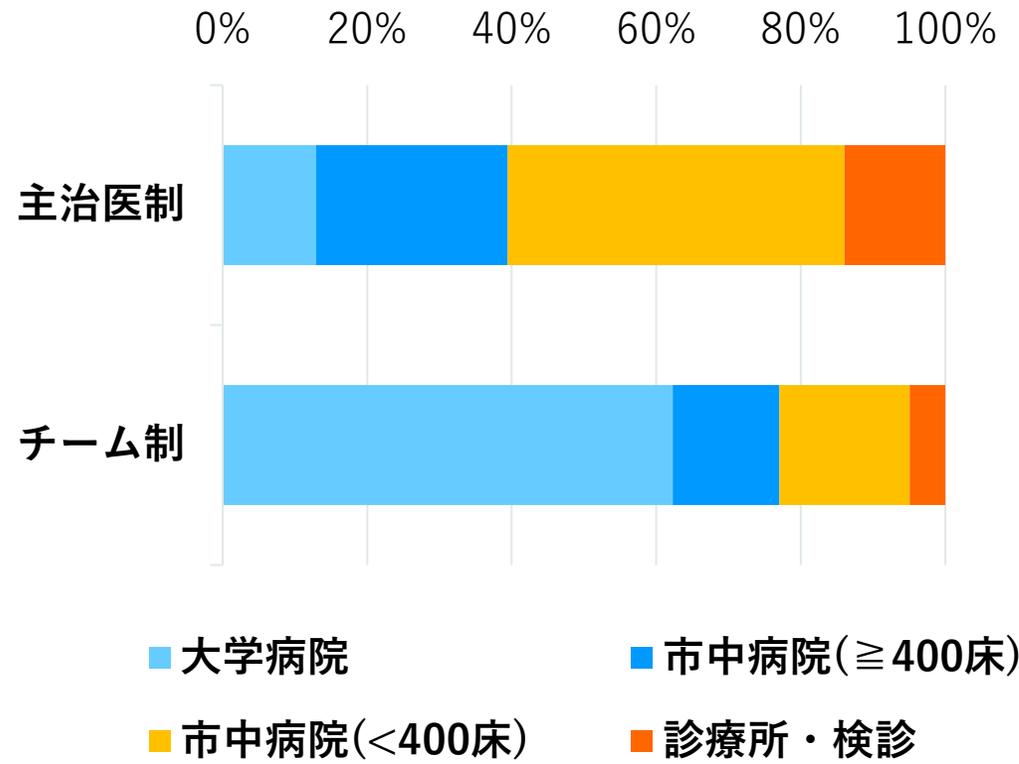
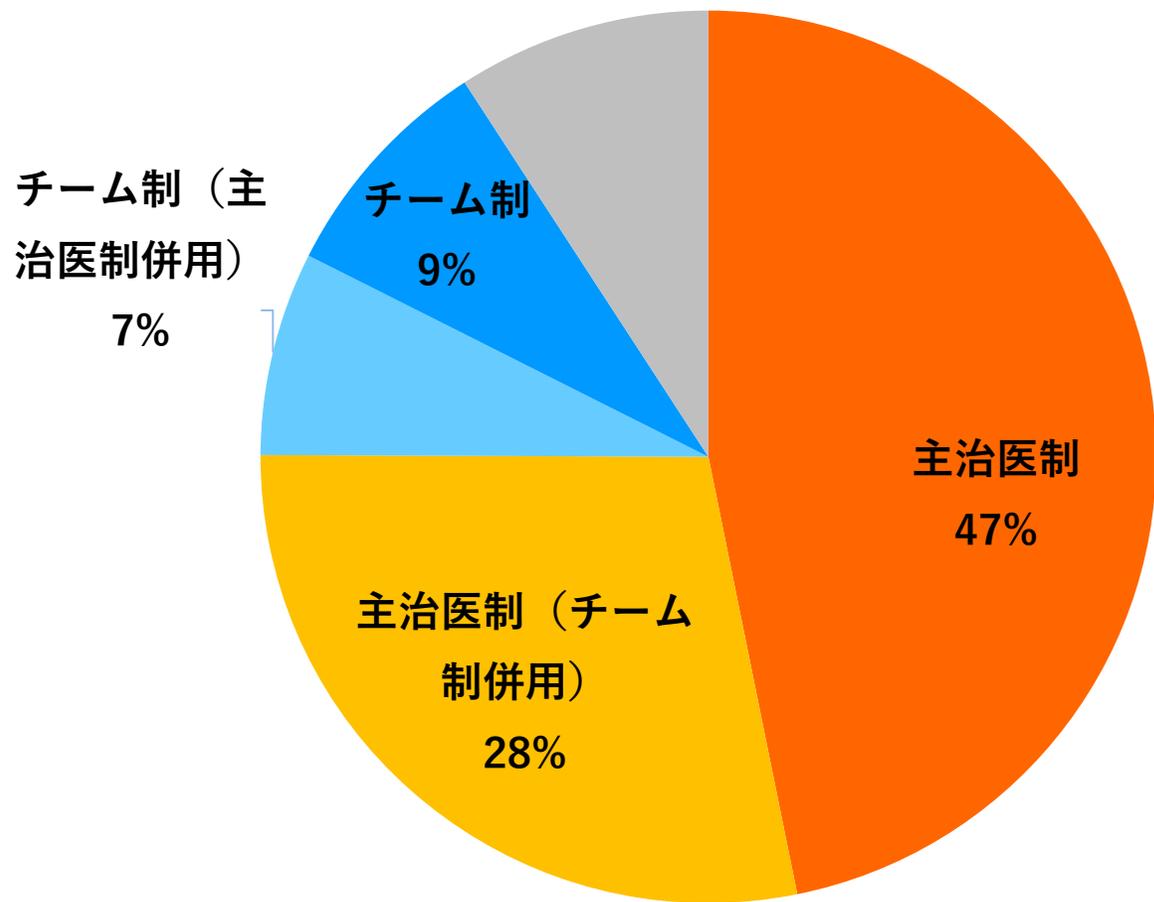
1カ月の残業時間



平日の平均的な帰宅時間

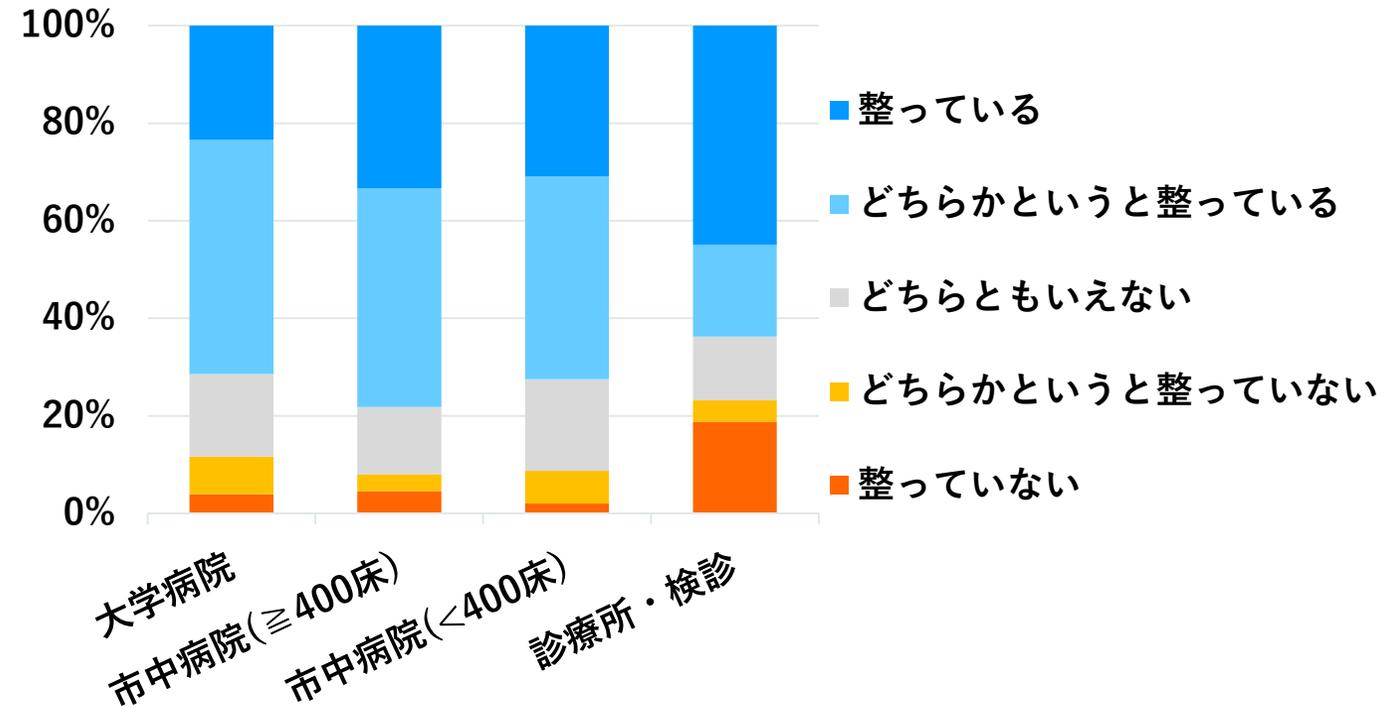
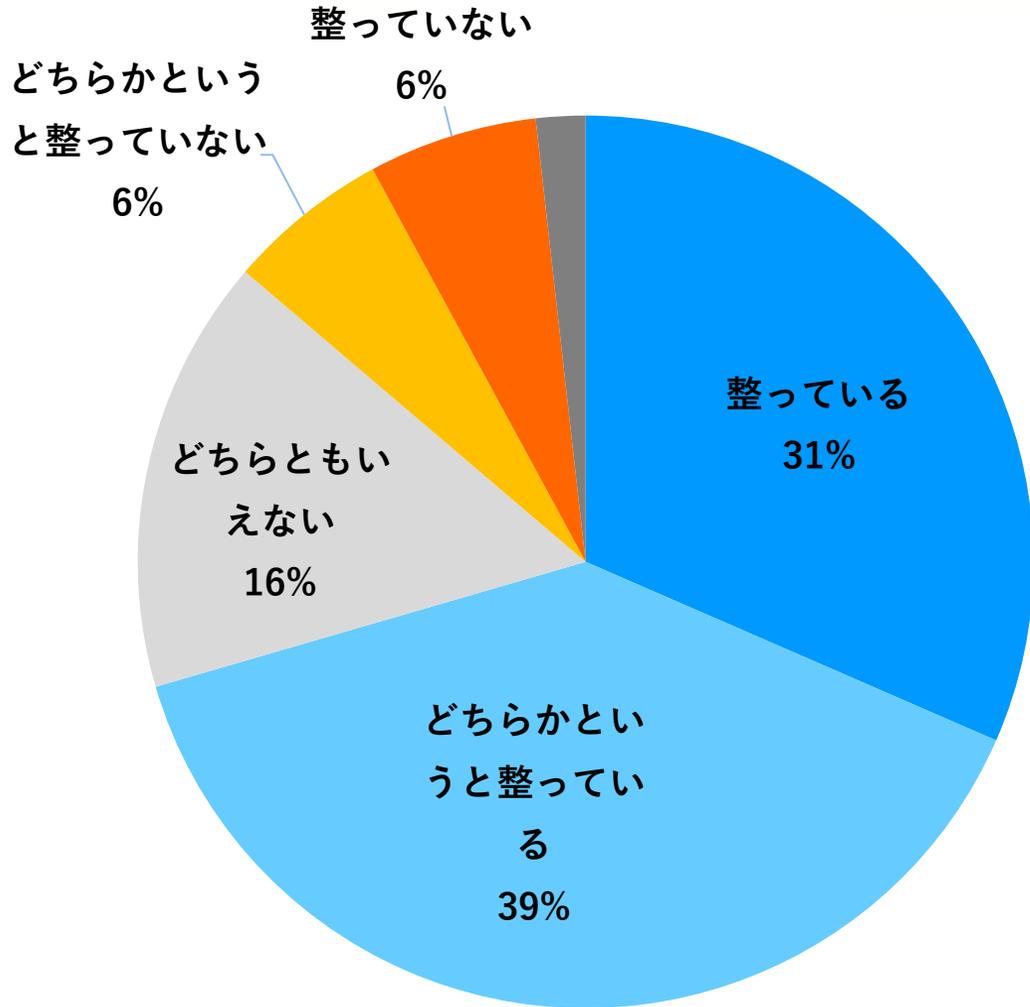


Q17. 主治医制 or チーム制？



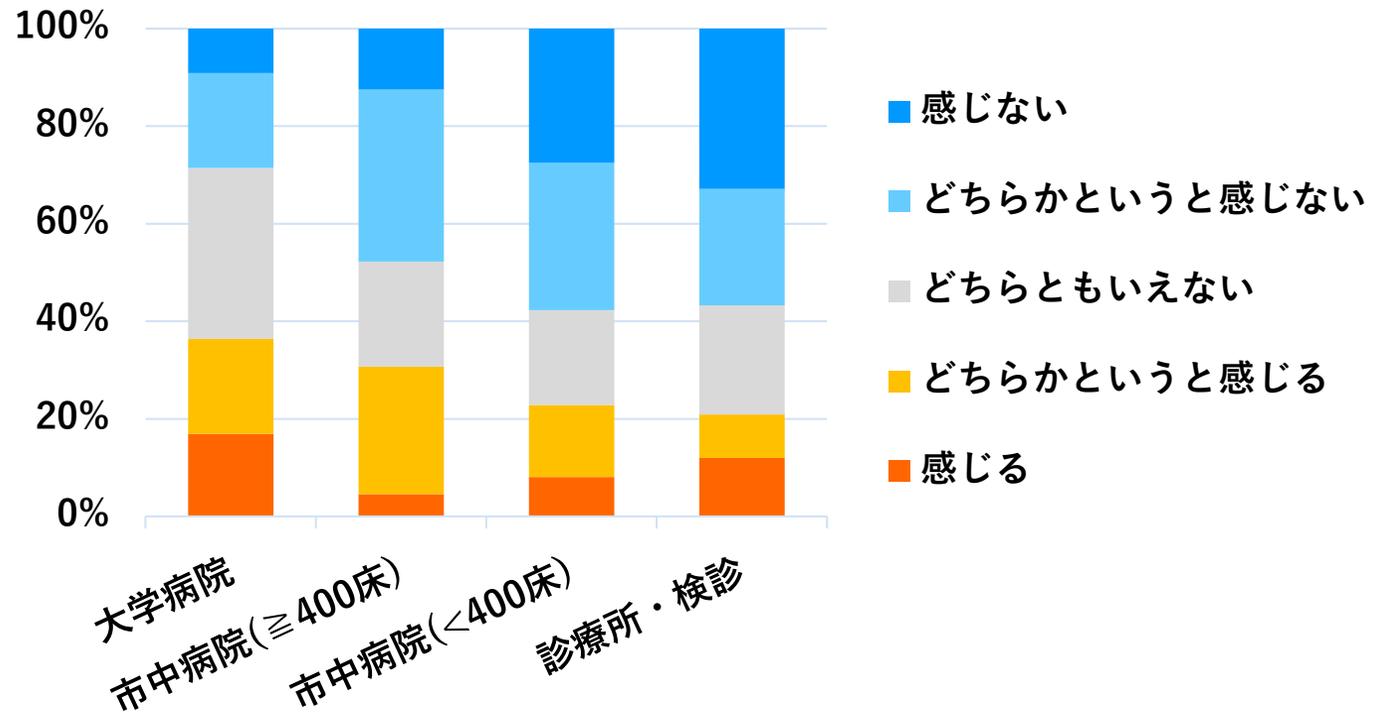
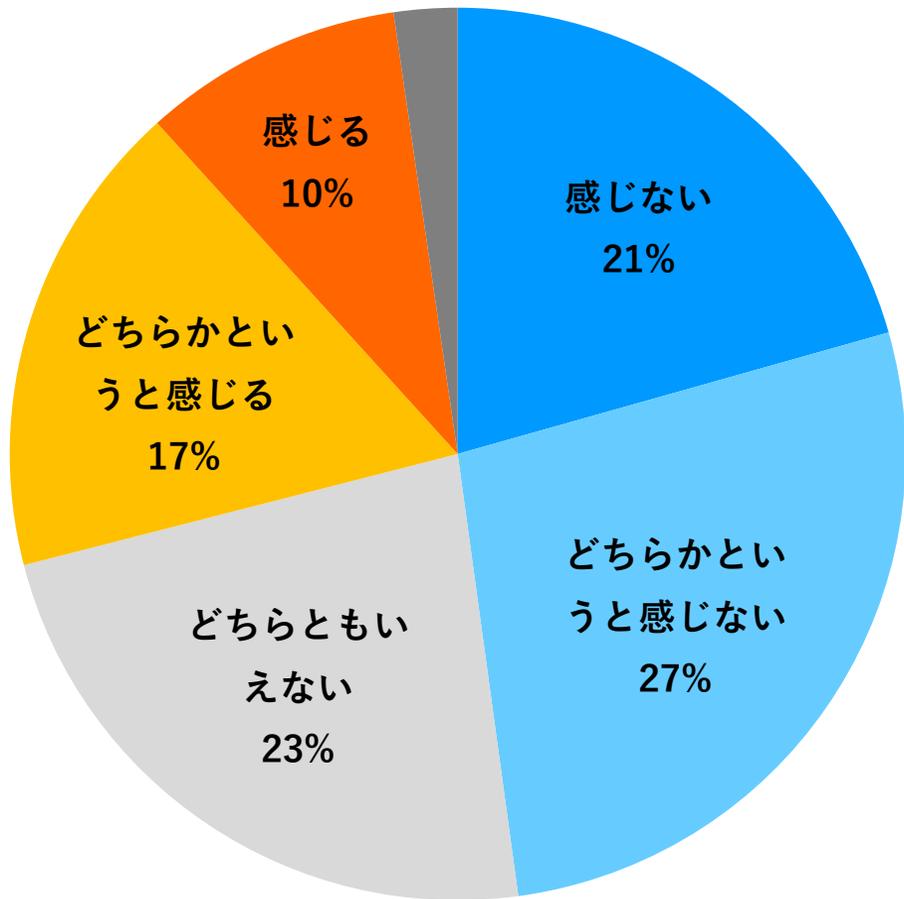
チーム制をとっている病院の7割以上が
大学病院と大規模市中病院

Q18. 休みやすい制度は整っているか



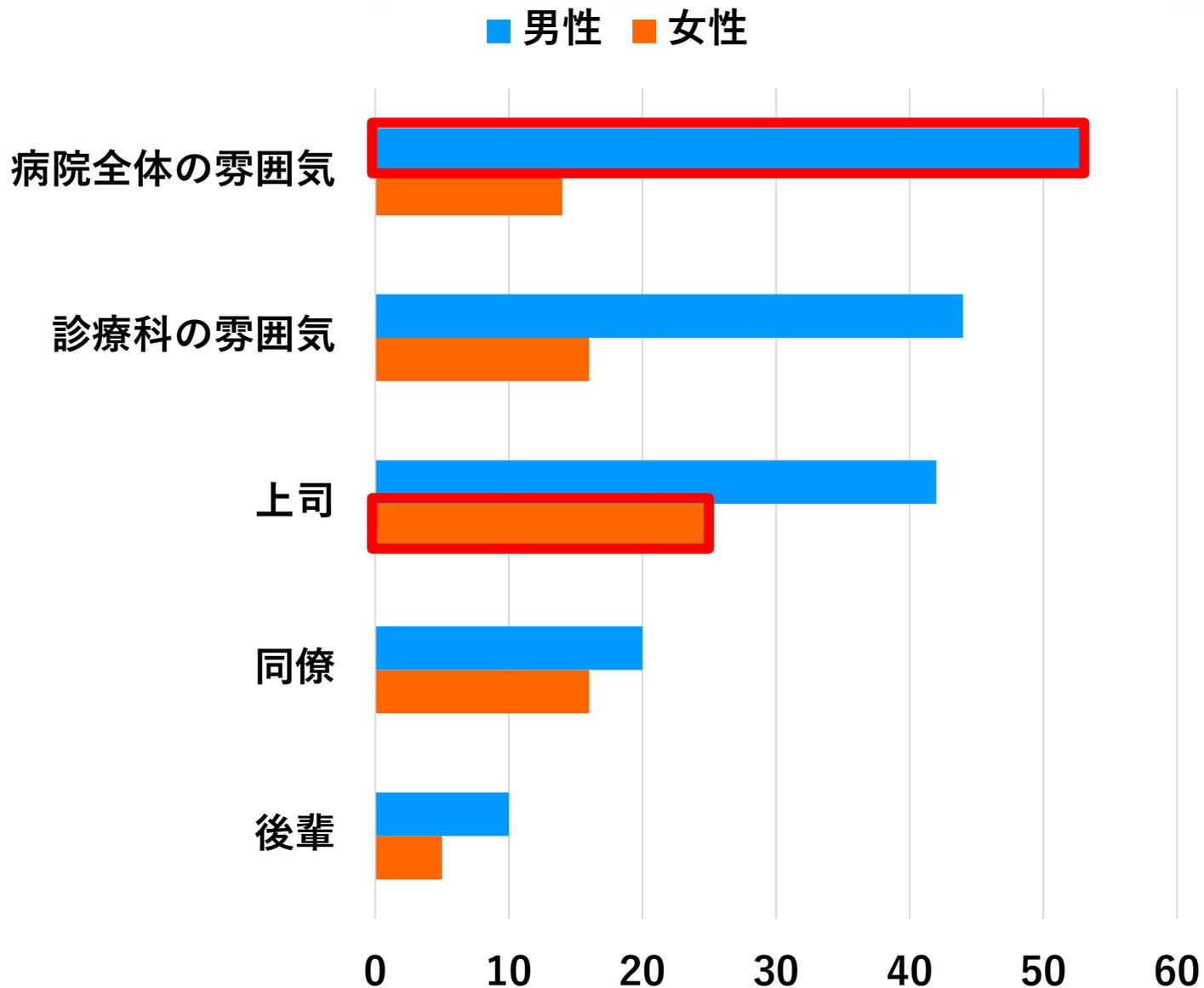
休みやすい制度が最も整っているのは
大規模市中病院

Q19. 休みづらいような空気感を感じるか



大学病院 > 大規模病院 > 小規模病院
の順で休みづらい空気感がある

Q20. 休みづらいような空気感を感じる理由

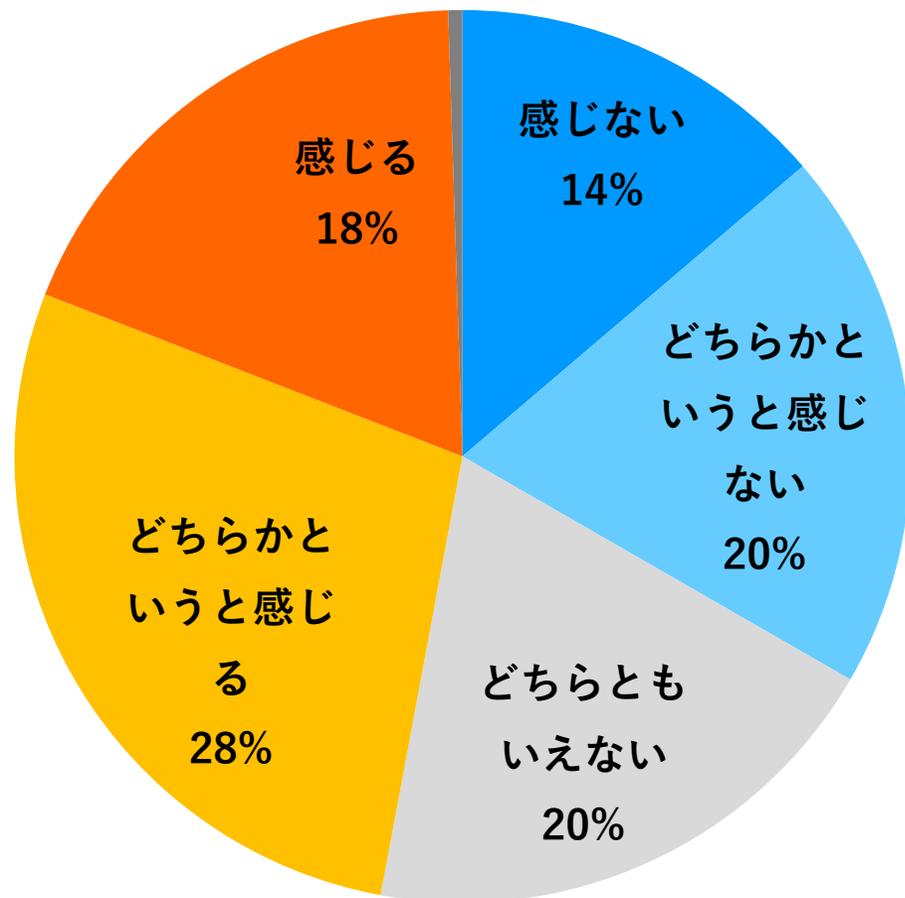


その他のコメント

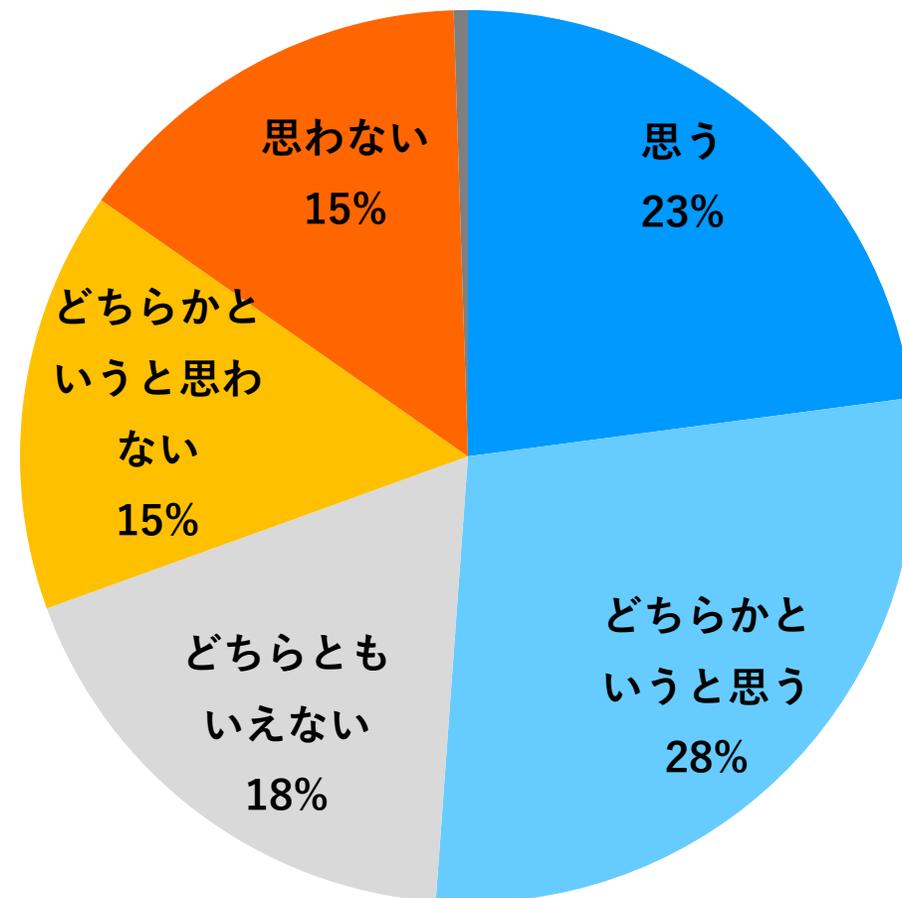
- ✓ 自分の良心
- ✓ 他の医師を含めて勤務予定が密であり、代診が可能な医師がいない。
- ✓ 人手が少ないため
- ✓ 経営への影響
- ✓ 患者がいる
- ✓ バイトだから
- ✓ 仕事が回らない、仕事が多い

現在の働き方は持続可能かどうか

Q21. 現在の働き方に疲弊していると感じますか？

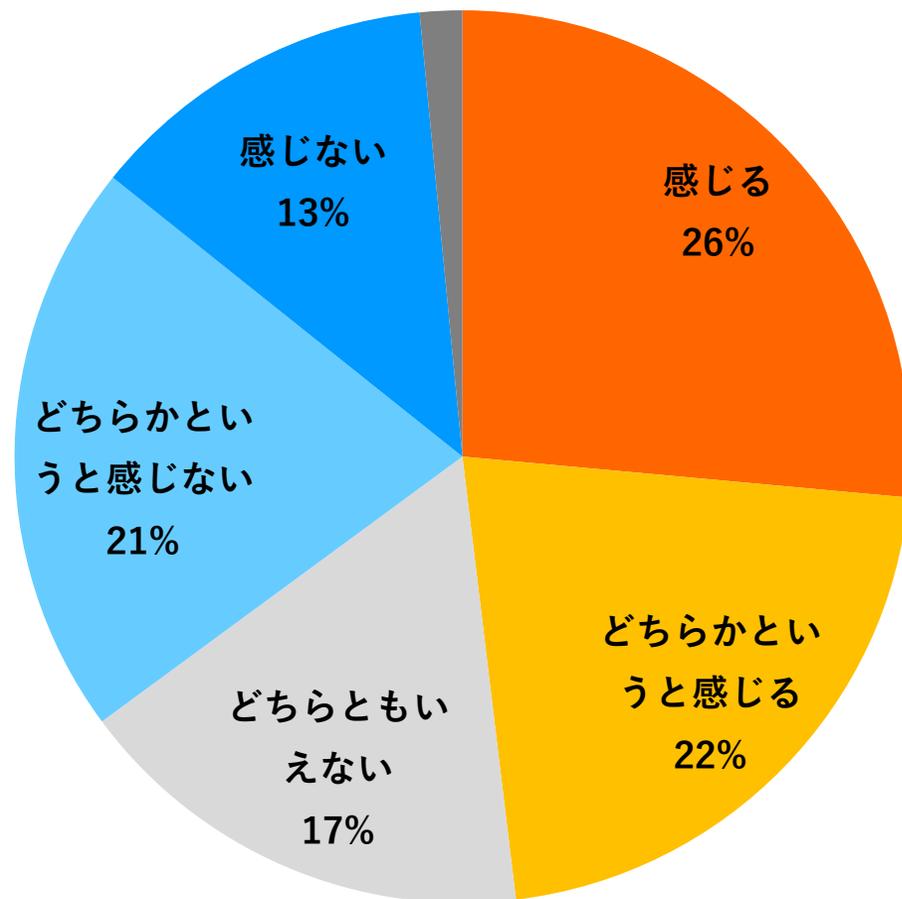


Q22. 現在の働き方は持続可能と思いますか？

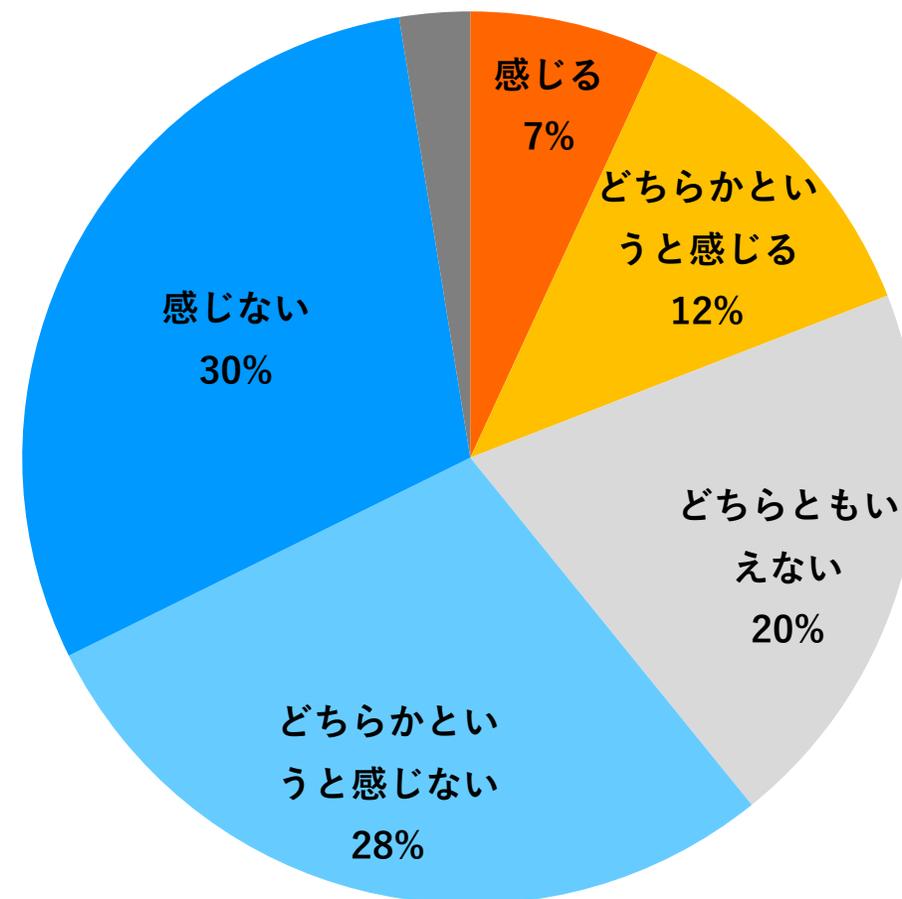


病院に長時間いることに対する意識

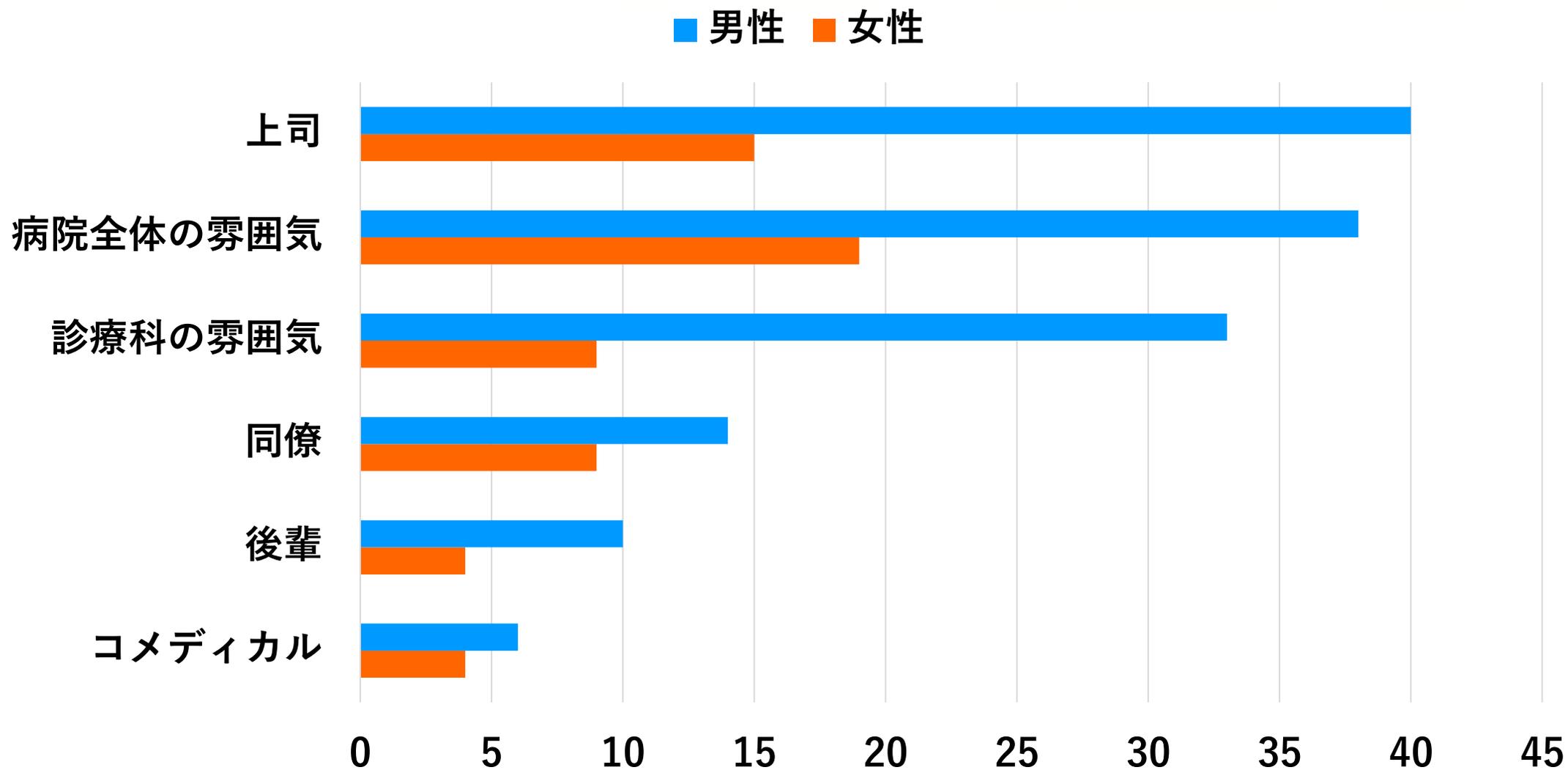
Q23.病院に長時間いることに抵抗感を感じますか？



Q24.長時間病院にいた方がよい空気感を感じますか？

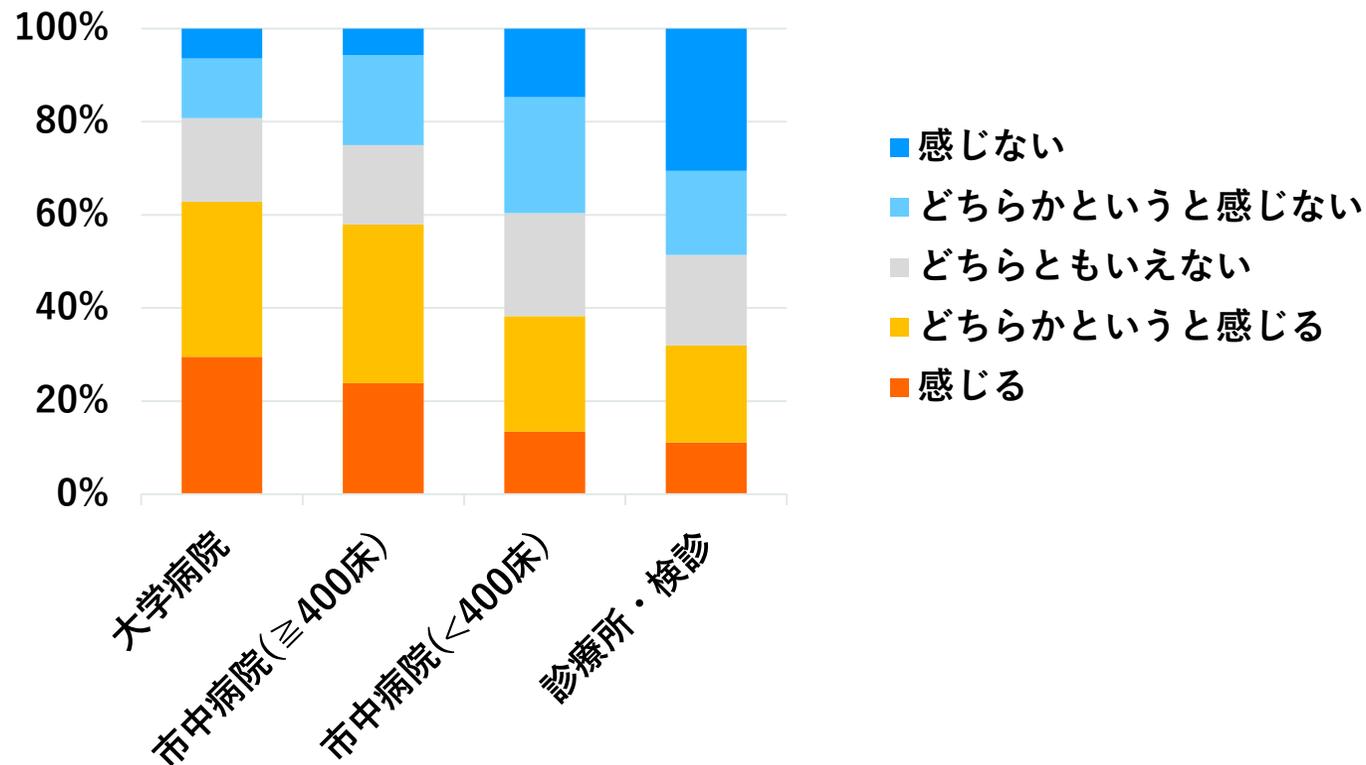


Q25. 長時間病院にいた方がいいように感じる理由

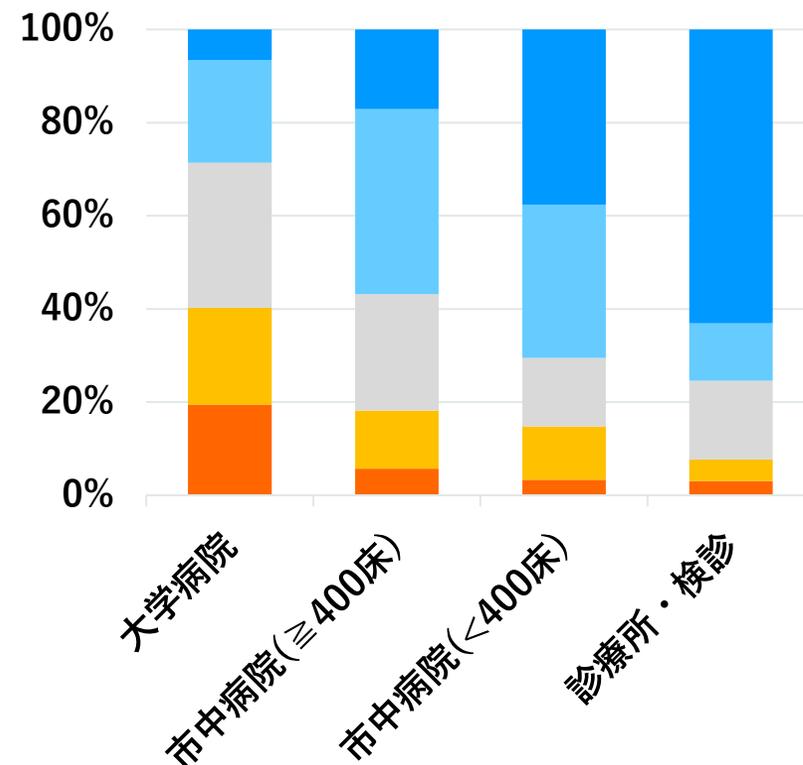


病院規模別の疲弊している割合と長時間在院の空気感

現在の働き方に疲弊していると感じますか？

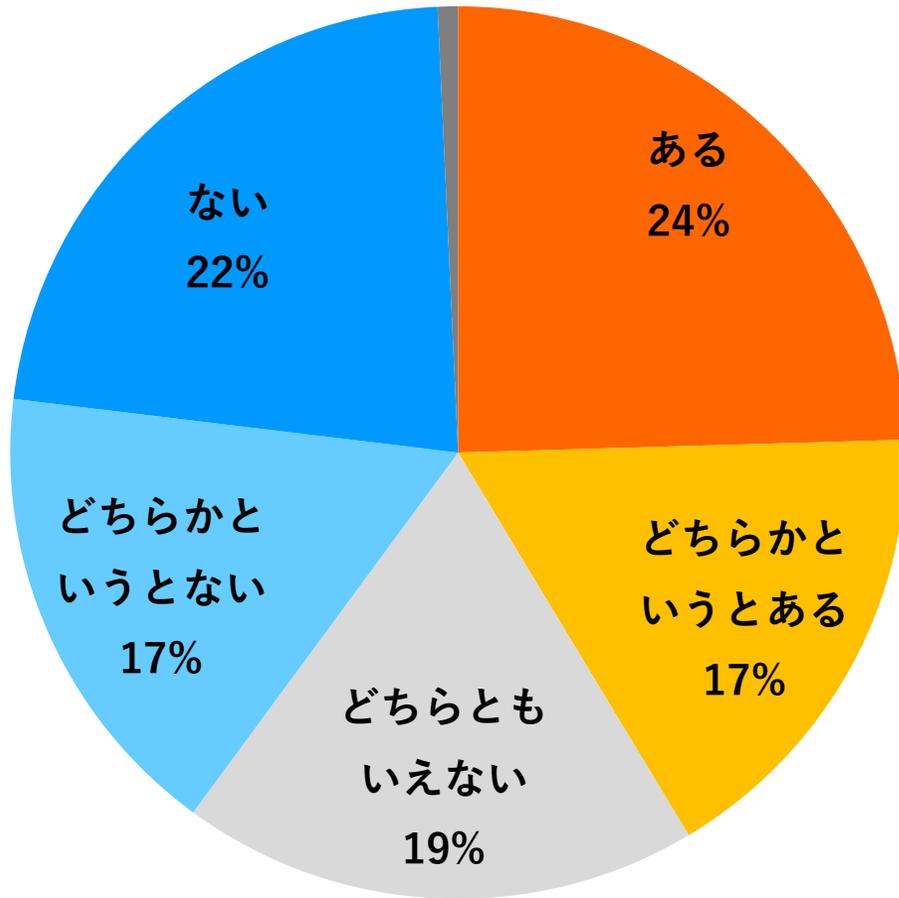


長時間病院にいた方がよい空気感を感じますか？

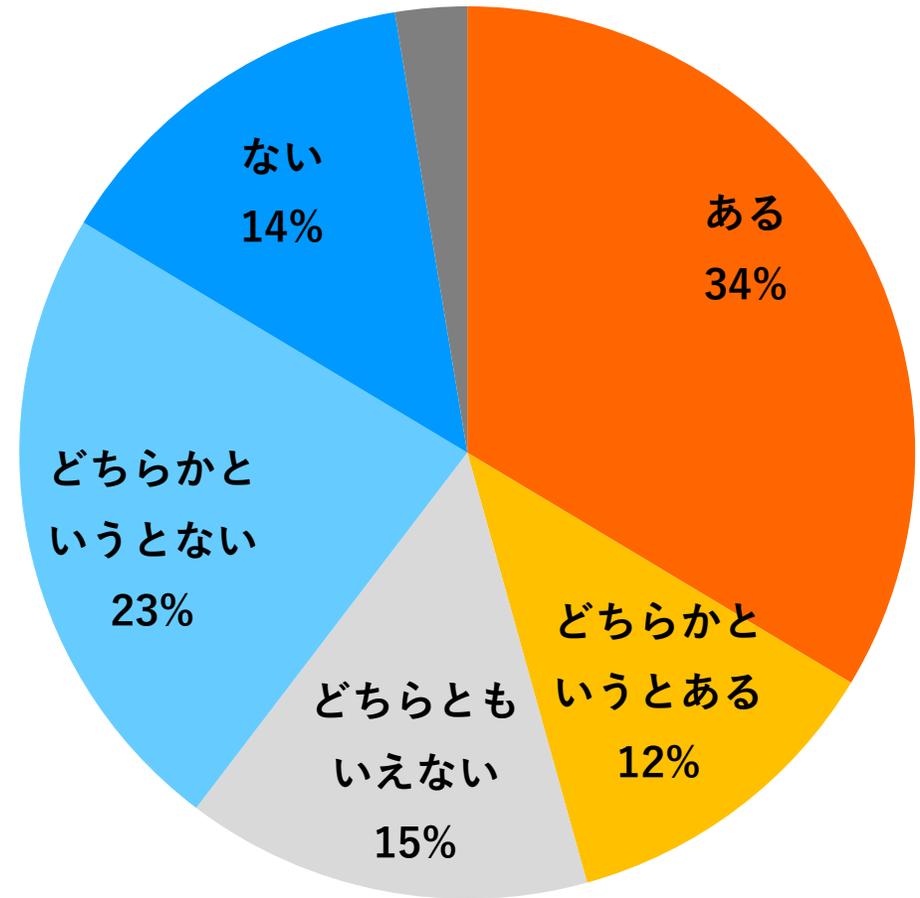


- 人員と制度が充実しているはずの大病院ほど現在の働き方に疲弊している
- 特に大学病院では「長時間病院にいた方が良い」空気感が強い

Q26. 仕事内容に関して性差を感じたことは？

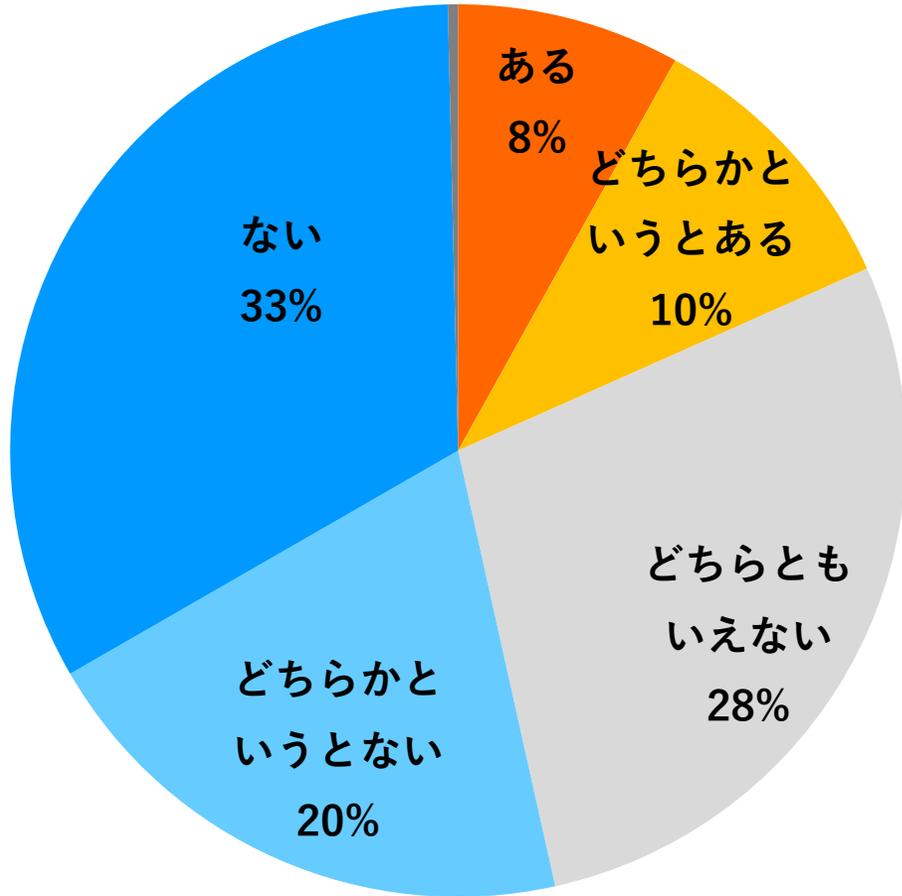


男性

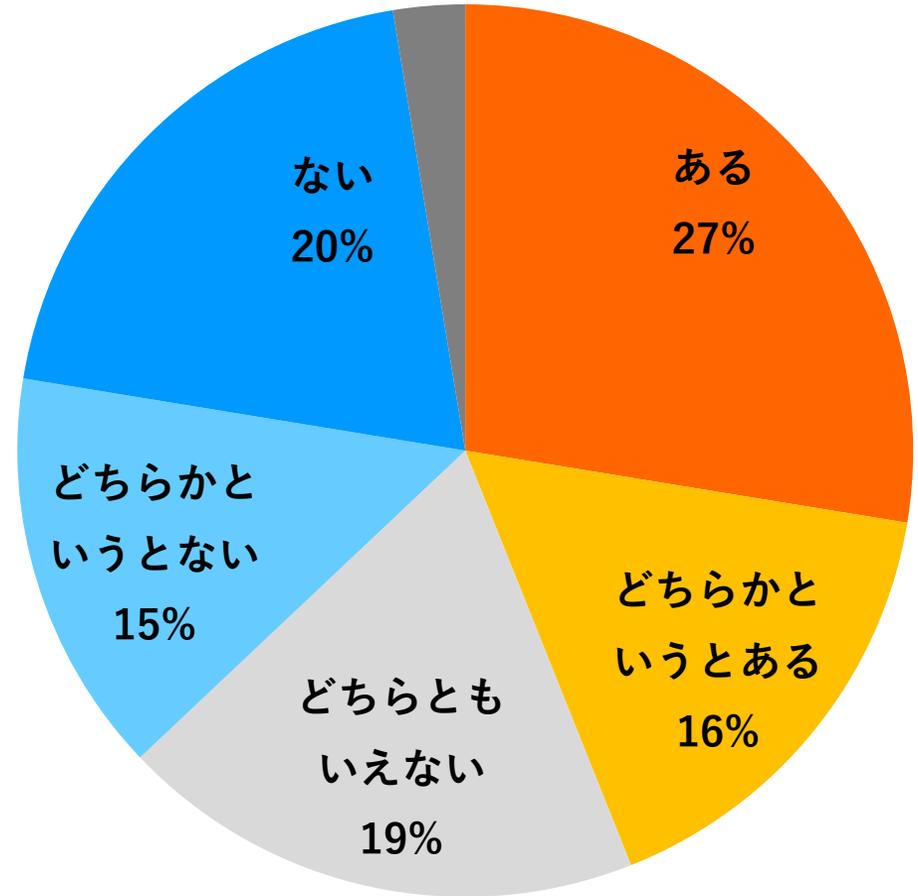


女性

Q27. 昇進に関して性差を感じたことは？

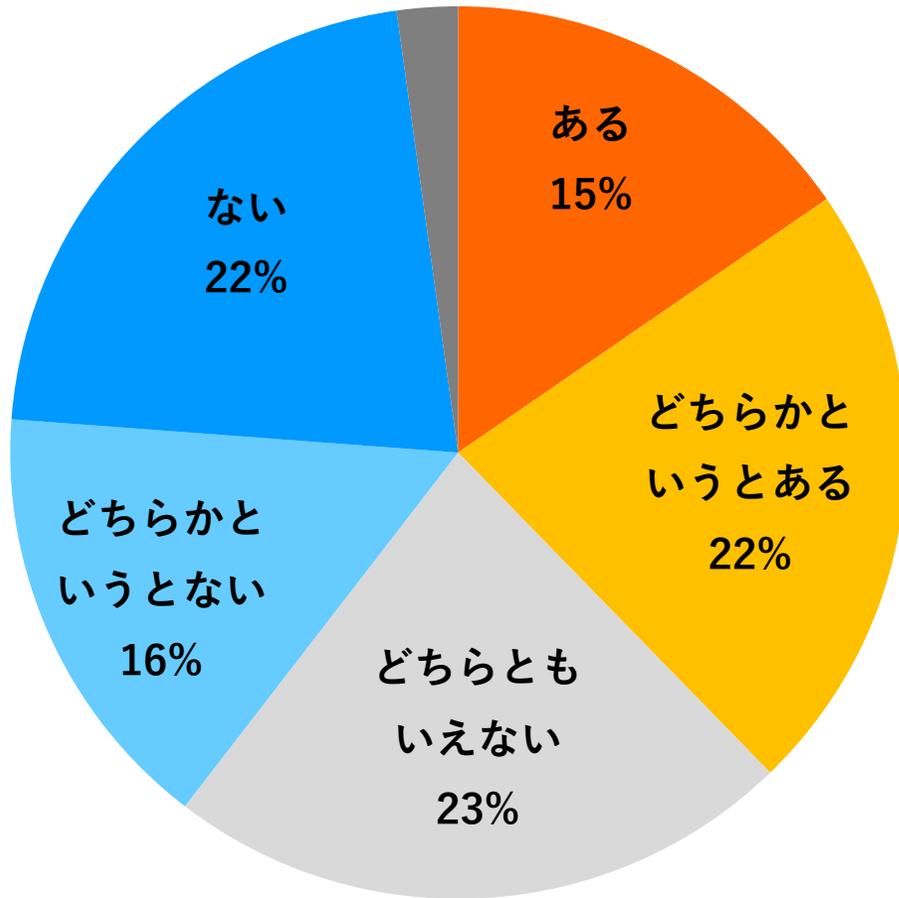


男性

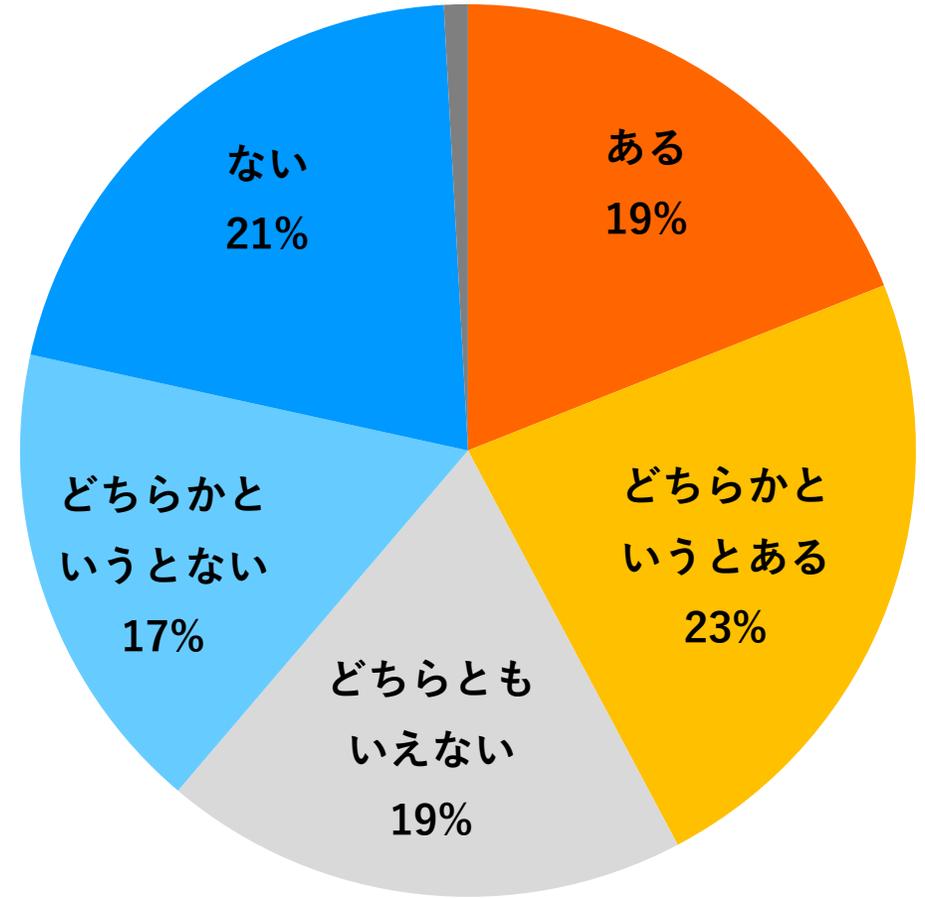


女性

Q28. 同僚に妊娠・出産・介護・自身の病気等の個人的要因を持つ医師がいることで、自分にとって支障を感じることはあるか？

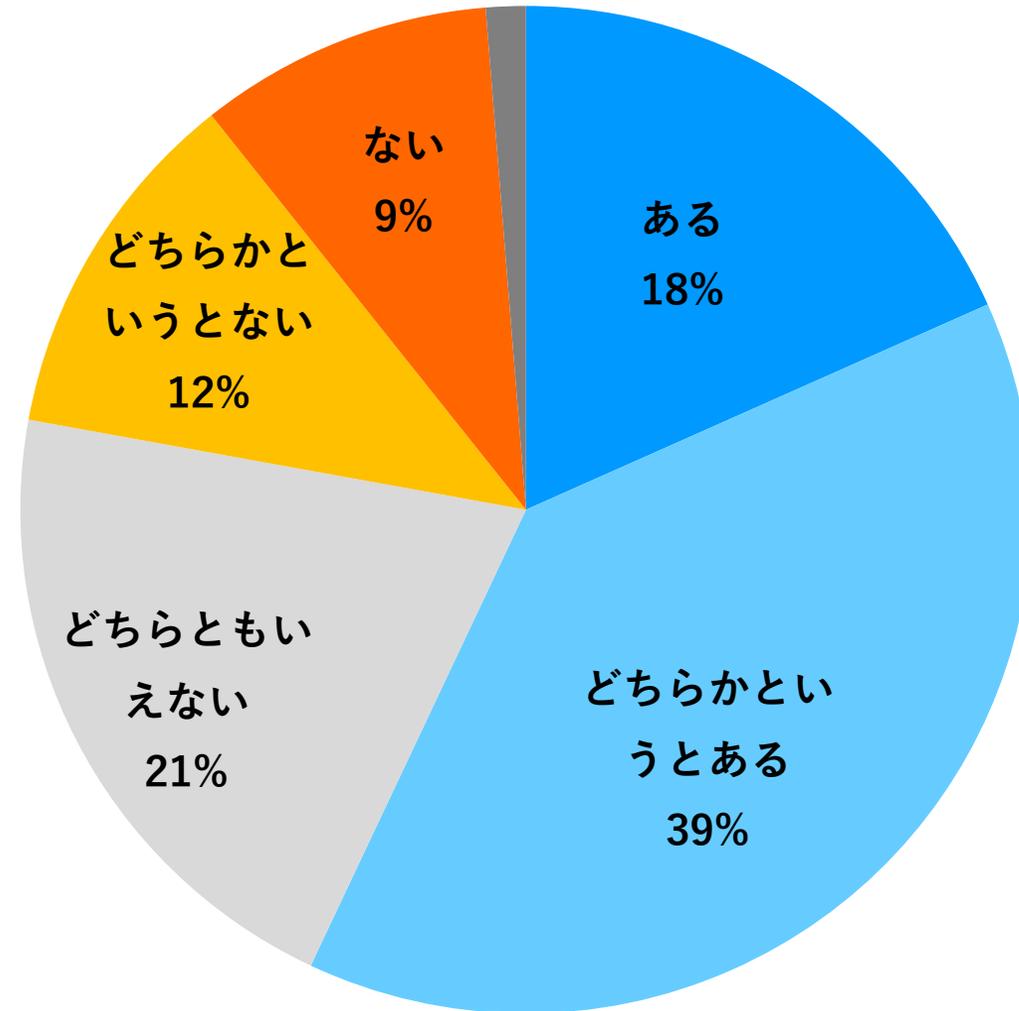


男性

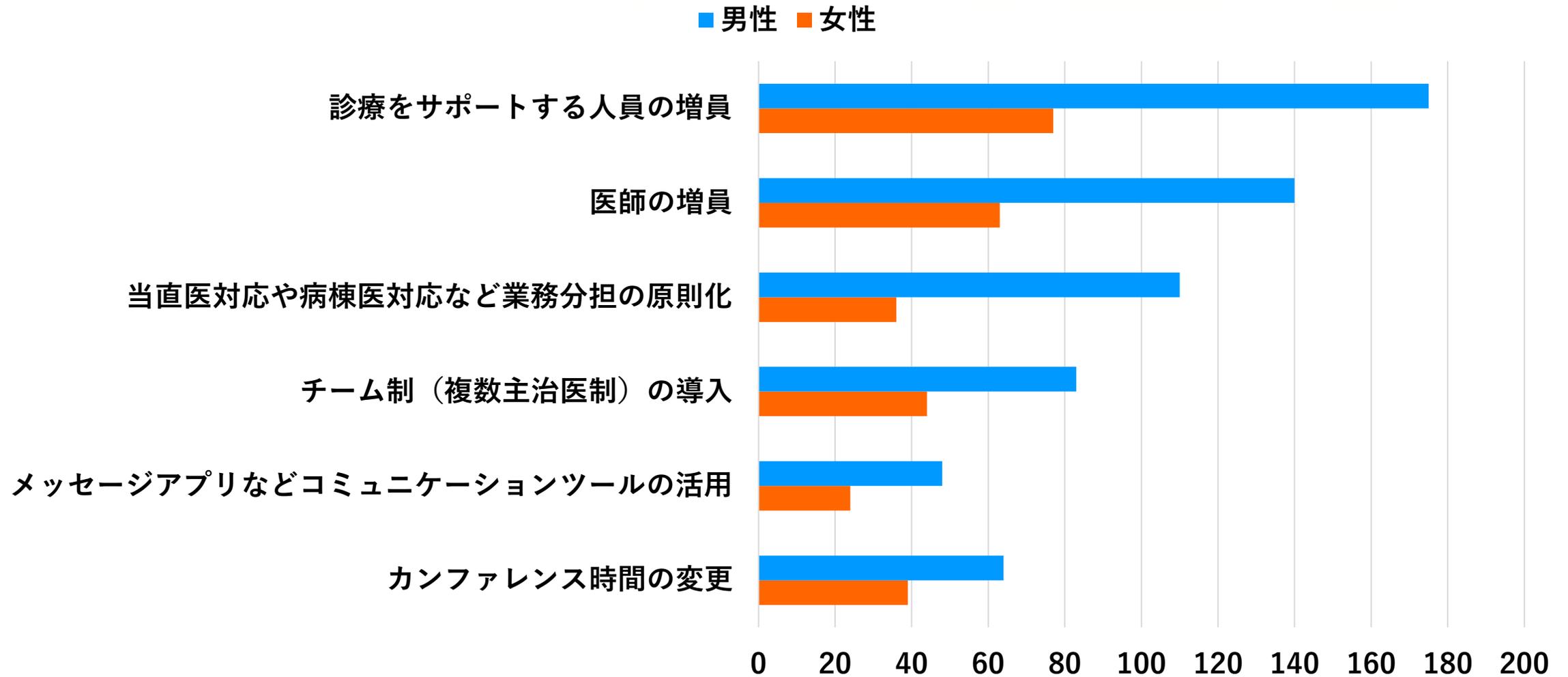


女性

Q29. 職場全体として労働時間削減・業務効率化に取り組む姿勢があるか



Q30. どのような点を改善すれば職場環境は改善すると思うか



どのような点を改善すれば職場環境はさらに改善すると思うか（抜粋）

診療体制

- 医師以外で出来ることは医師以外の職種にタスクシフトする。
- 病院内の不必要なルール、規則の変更。
- 救急医療の廃止、縮小。
- 診療時間の短縮、初診患者数の制限。
- オンコール制の徹底。電話して繋がりがやすい人に当直が連絡しがち。
- 末端の声を拾い上げれる病院運営が必要。

意識改革

- 基本的には業務は時間内に終わらせるという認識を皆が共有する。
- 上に立つ者・管理者の意識改革、既存の男性社会での常識からの脱却。
- 患者側の理解、意識改革も不可欠。
- 上司が早く帰る。

どのような点を改善すれば職場環境はさらに改善すると思うか（抜粋）

人員問題

- 医師の数が足りない。
- 当直や待機ができる医師を増やす。
- 若手を増やす。
- 医師以外のスタッフの増員。

収入問題

- 収入の増加。
- オンコール待機に対する給与。
- 生活をパートに依存しないでよい程度の常勤給与（大学病院勤務）。
- 歩合制。

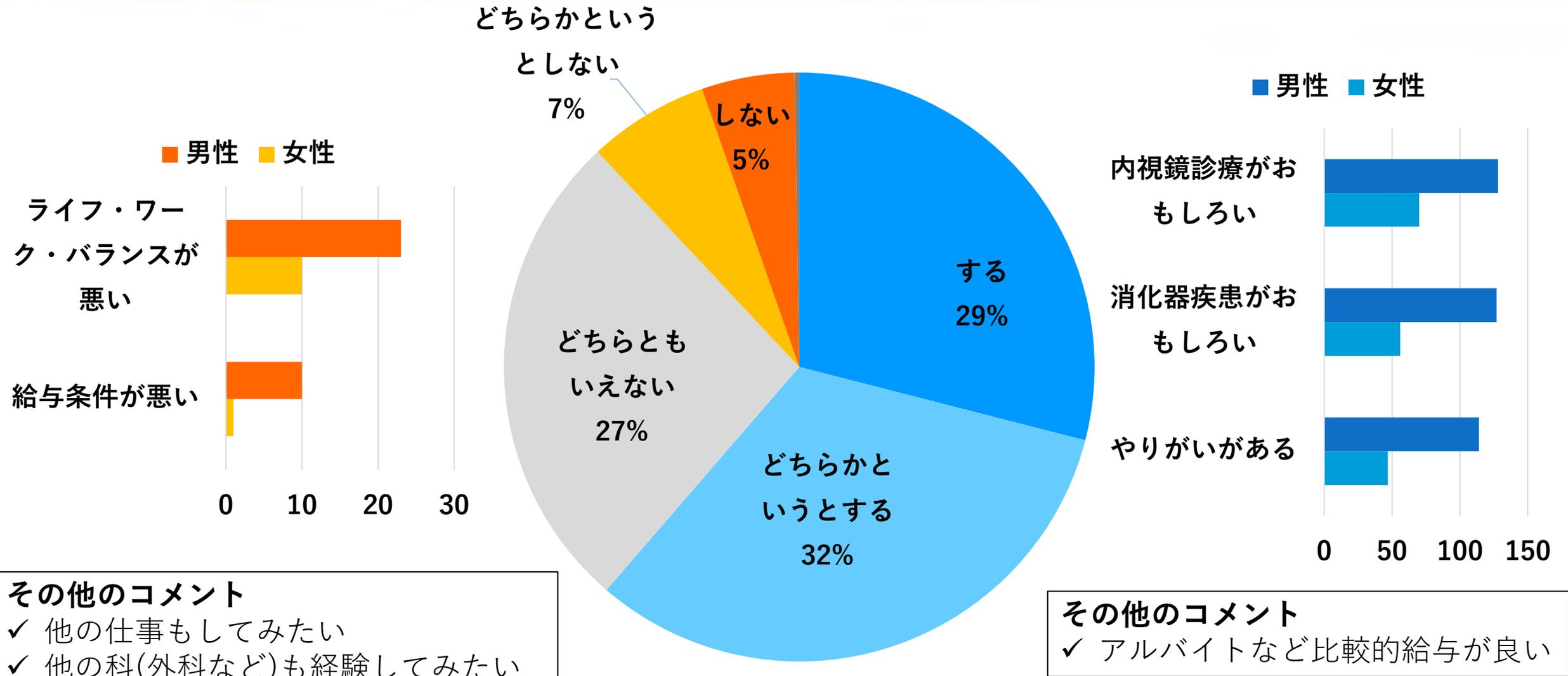
育児・介護問題

- 育児中の女医への減給や昇給停止をやめる。
- 育児や介護で休みを取れる環境が整ってほしい。
- 母親だけでなく父親も休める雰囲気整ってほしい。

自己研鑽問題

- 自己研鑽という名の学会活動への強制的な発表参加要請。
- 病院経営者に都合の良い自己研鑽という概念の廃止。
- 雑務、研究会や学会の仕事提言。

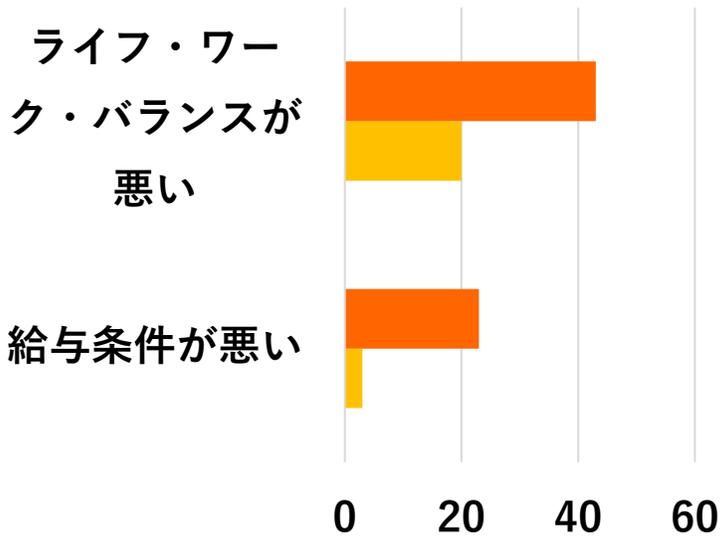
Q34-35. 医学生に戻れるとすれば再び消化器内科を選択するか



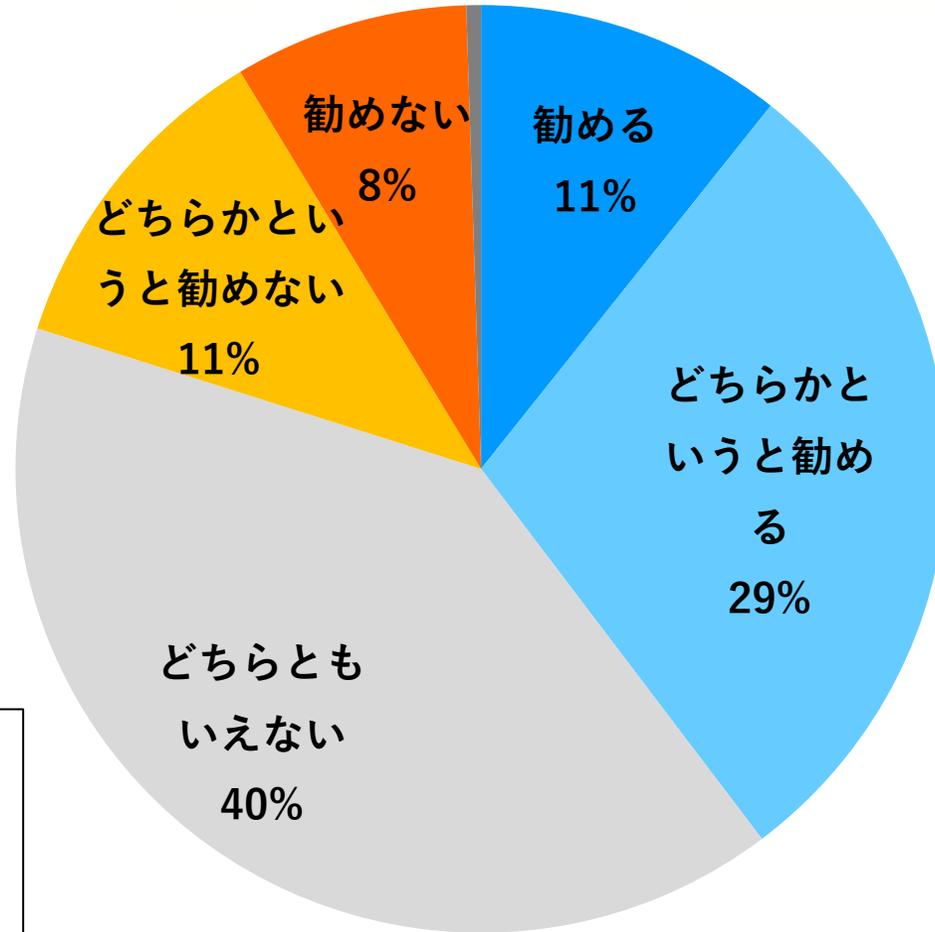
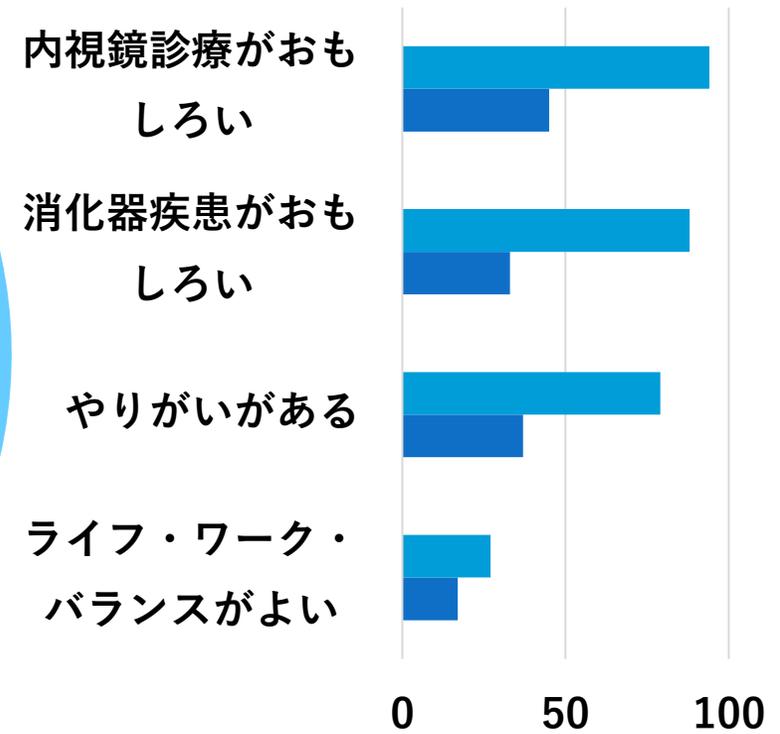
6割以上が再び消化器内科を選択したいと考えている

Q32-33. 自分の後輩や子供に消化器内科になることを勧めるか

■ 男性 ■ 女性



■ 男性 ■ 女性



その他のコメント

- ✓ 医師を勧めるか不明
- ✓ 将来性がない
- ✓ 救急対応がある
- ✓ 2年間の無駄な研修制度
- ✓ 子供が自分で決めることであり質問の意図自体が昭和の考え

6割以上が再び消化器内科を選択したいと考えているにも関わらず、消化器内科を勧めたいと思う人は4割

「医学生に戻っても消化器内科を再選択する」 ことに関する項目

アンケート項目	項目	単変量解析(95%CI)	p値	多変量解析(95%CI)	p値
性別	女性／男性	1.265 (0.804-1.992)	0.309		
勤務先病院	小規模／大規模	1.133 (0.750-1.712)	0.552		
医局への所属	無所属／所属	1.383 (0.892-2.144)	0.148		
役職	管理職／非管理職	1.189 (0.788-1.793)	0.410		
勤務形態	非常勤／常勤	1.126 (0.598-2.121)	0.713		
1週間の勤務日数	5日未満／5日以上	1.414 (0.672-2.978)	0.362		
1週間の勤務時間	50時間以上／50時間未満	1.028 (0.684-1.847)	0.893		
日当直の回数	1回以上／0回	1.000 (0.665-1.506)	0.998		
日当直の忙しさ	休めない／休める	1.342 (0.808-2.231)	0.256		
オンコールの回数	1回以上／0回	1.120 (0.743-1.688)	0.588		
残業時間	45時間以上／45時間未満	1.074 (0.693-1.665)	0.748		
休日に職場に行く回数	0回／1回以上	1.226 (0.790-1.904)	0.363		
帰宅時間	19時まで／19時以降	1.107 (0.729-1.682)	0.634		
主治医制かチーム制か	チーム制／主治医制	1.099 (0.624-1.935)	0.744		
休みやすい体制は整っているか	はい／どちらともいえない～いいえ	1.573 (1.002-2.467)	0.049	1.072 (0.630-1.824)	0.797
休みづらい空気感を感じるか	いいえ／どちらともいえない～はい	1.782 (1.174-2.704)	0.007	1.418 (0.842-2.387)	0.189
現在の働き方に疲弊しているか	いいえ／どちらともいえない～はい	1.610 (1.033-2.509)	0.036	1.097 (0.630-1.912)	0.743
現在の働き方は持続可能か	はい／どちらともいえない～いいえ	1.656 (1.098-2.496)	0.016	1.408 (0.858-2.310)	0.176
長時間病院にいることに抵抗はあるか	いいえ／どちらともいえない～はい	1.838 (1.174-2.878)	0.008	1.473 (0.907-2.393)	0.118
長時間病院にいた方がいいような空気感はあるか	いいえ／どちらともいえない～はい	1.571 (1.034-2.389)	0.035	0.990 (0.603-1.624)	0.967
仕事内容に関して性差を感じるか	いいえ／どちらともいえない～はい	1.017 (0.669-1.547)	0.936		
昇進に関して性差を感じるか	どちらともいえない～はい／いいえ	1.053 (0.700-1.584)	0.805		
同僚の個人的要因で支障を感じるか	いいえ／どちらともいえない～はい	1.190 (0.778-1.820)	0.421		
職場に労働時間削減に取り組む姿勢はあるか	はい／どちらともいえない～いいえ	1.915 (1.264-2.901)	0.002	1.685 (1.071-2.653)	0.024

質問項目

- 基本属性（性別・年齢・勤務先）
- 働き方の現状

- 男性、女性における働き方
- 男性、女性における子育てとそれを取り巻く環境
- 資格や理想とする働き方に関して

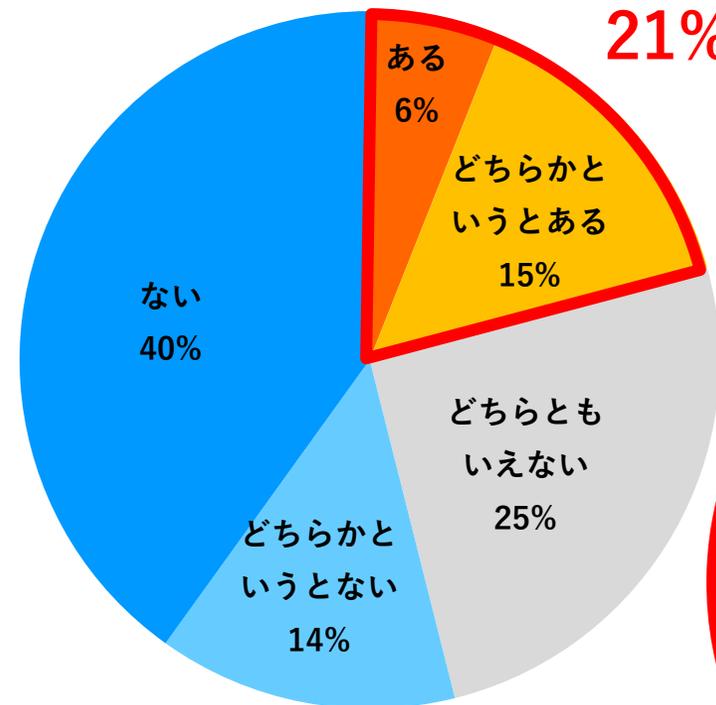
一部を抜粋

出産・育児は女性にとって大きなライフイベントとなる

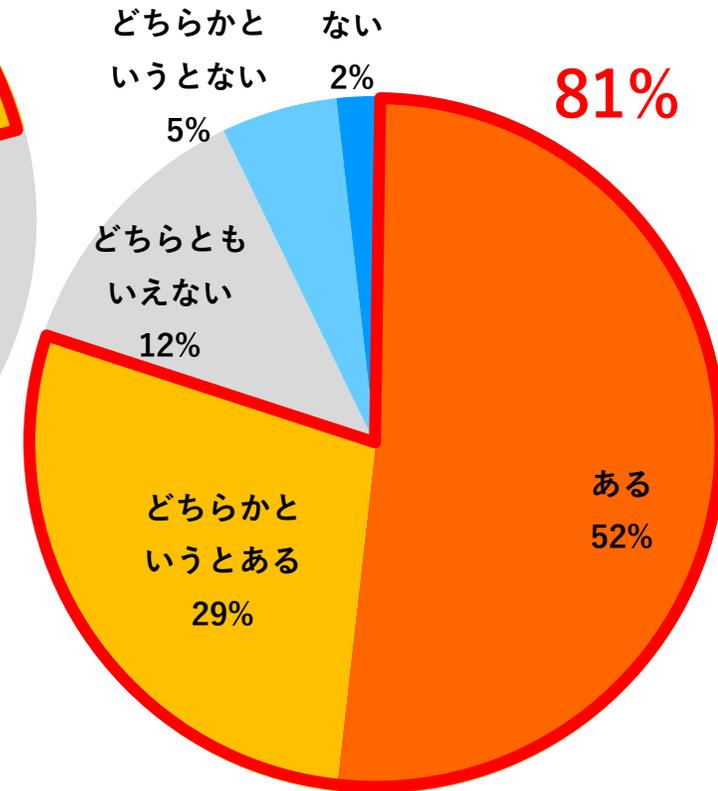
Q68, Q94. 育児が自分のキャリアアップの妨げになっていると感じたことはあるか？



ChatGPTにて生成

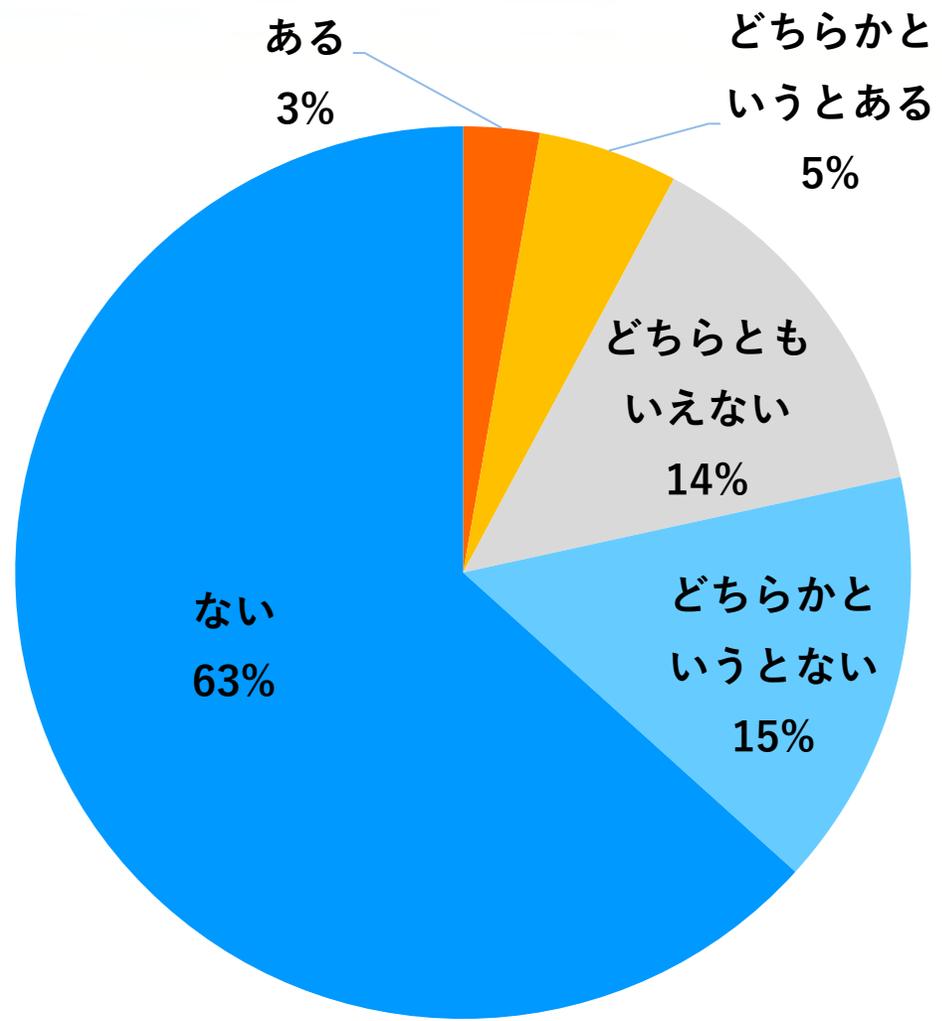


男性

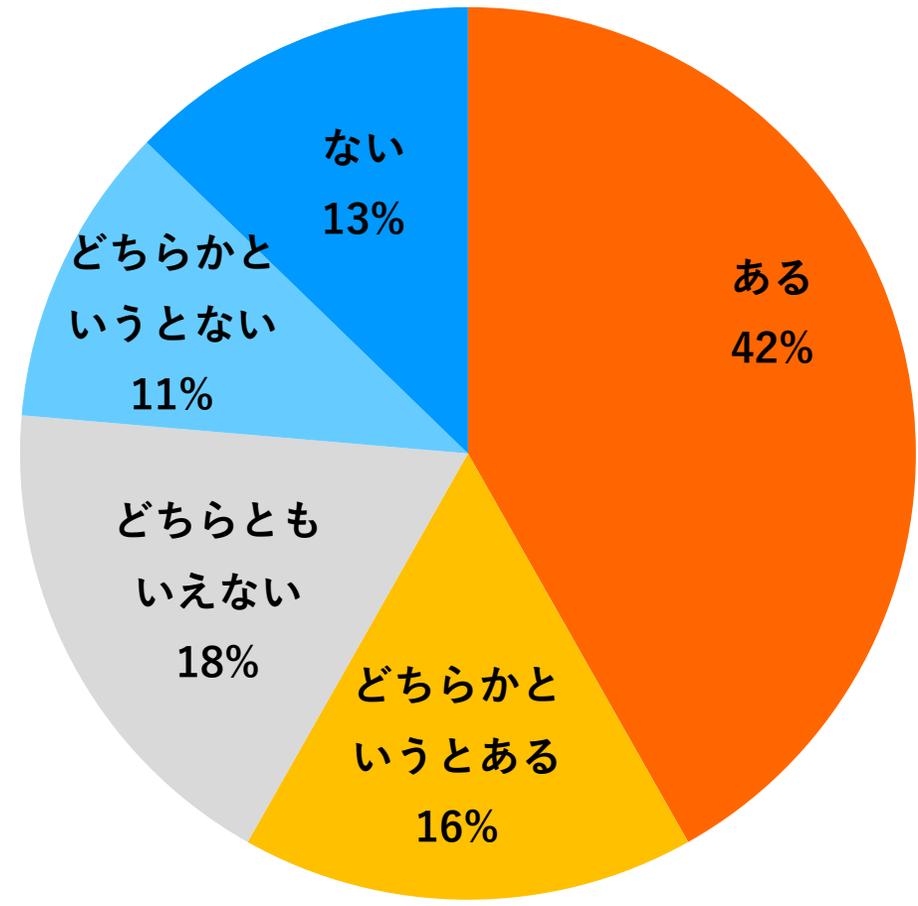


女性

Q69, Q95. 子供がいることが原因で、責任ある仕事や高度な手技をまかされないと感じることはあるか？



男性

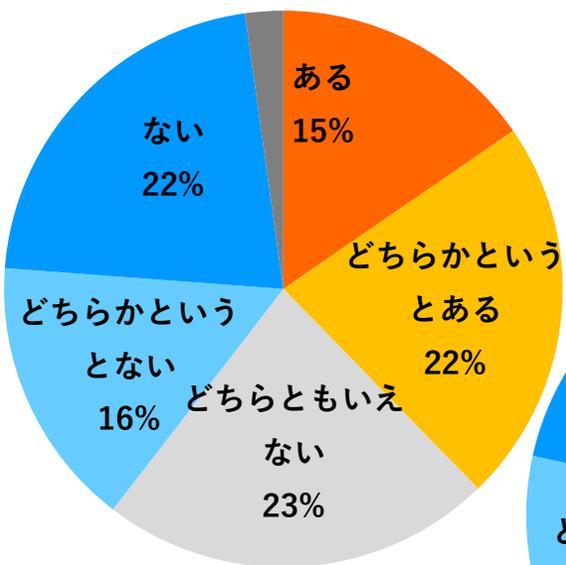


女性

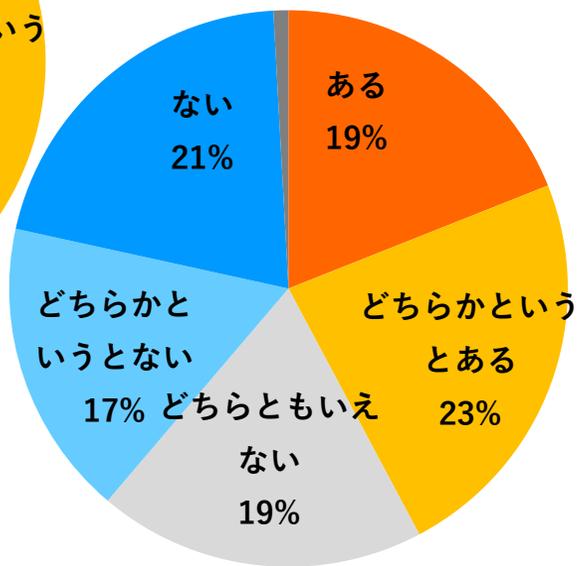
出産・育児による女性医師の離脱により、残された医師（女性医師を含め）に負担がかかる

Q28. 同僚に妊娠・出産・介護・自身の病気等の個人的要因を持つ医師がいることで支障に感じることはあるか？

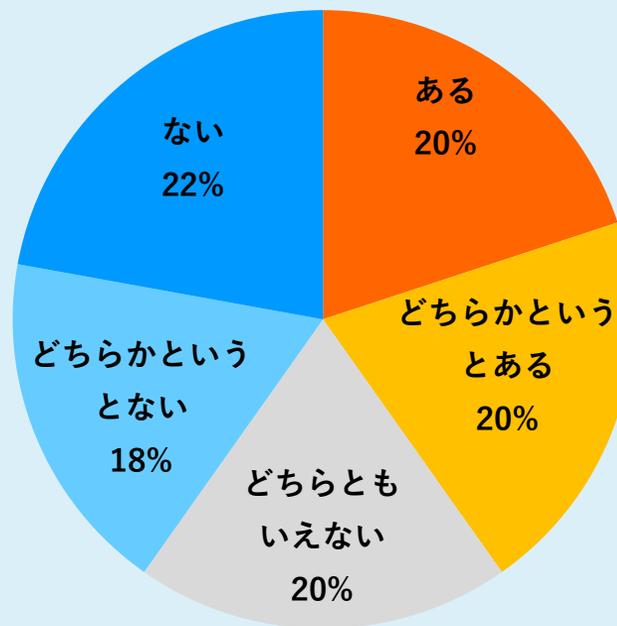
男性



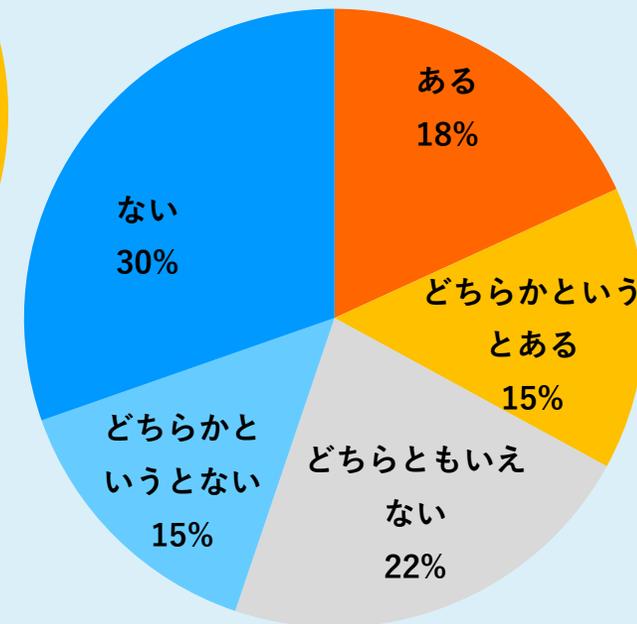
女性



Q76. 男性であることによって、責任ある仕事あるいは緊急内視鏡や特殊な処置を押し付けられていると感じたことはあるか？



Q77. 出産後の女性の代わりに自身の仕事が増え辛かった経験はありますか。



残された医師にかかる負担を軽減する体制作りや仕組みが求められる

今日のまとめ

働き方に関して

- 大規模市中病院で残業時間が最も多い一方で、帰宅時間は大学病院が最も遅い
- 半数の医師が現在の働き方に疲弊しており、3割の医師は持続困難と考えている。
- 大規模病院ほどチーム制の導入や休みやすい環境が整っている一方で、休みづらい空気や長時間在院が好ましい空気感があり、疲弊感につながっている。
- 6割以上が再び医学生に戻ったとしても消化器内科を選択したいと考えているにも関わらず、消化器内科を他人に勧めたいと思う人は4割。
- 「**職場に労働時間削減に取り組む姿勢がある**」ことがもう一度消化器内科を選択したいと思うことに関連する最も強い因子であった。

出産・育児に関して

- 出産・育児がキャリアアップの障害になると考えている女性医師は多い
- 残された医師にかかる負担を軽減するシステム作りが求められる。

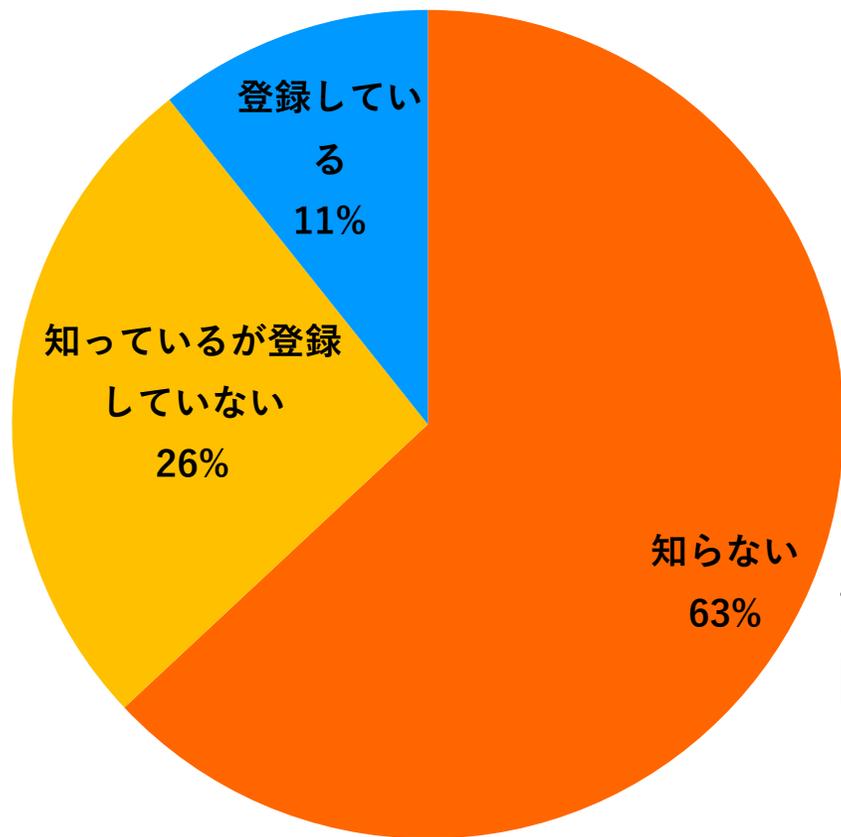
今回のアンケートを通じて得た個人的な感想

- **職場で一丸となって労働環境の改善に取り組む姿勢**が、仕事の満足度につながる。
- 皆が同じ意識を共有することでしか**旧態依然とした空気感**は改善できない。
- 人員の増員や、診療体制の変更は急には難しいかもしれないが、**意識の変革は今日からでもできる。**

地道な情報発信が重要！

女性内視鏡医の会 LINE公式アカウント

- 女性医師にとって役立つ情報や、消化器内科に関連するトピックスなどを発信する公式LINEアカウントです。
- 女性医師だけでなく男性医師の登録也大歓迎です！



女性内視鏡医の会公式LINEアカウントがあることをご存じですか？

LINE 公式アカウント

友だち募集

@416hixcu

LINEの「友だち追加」から、ID検索するかQRコードをスキャンしてください

IGES Kinki Chapter
of Women Endoscopists
Gastro Support Committee

男女問わず支部所属会員の消化器内視鏡医としてのキャリア支援に役立つ情報、当会に関するお知らせを配信します。

日本消化器内視鏡学会近畿支部
女性内視鏡医の会